

第2章

学会活動の20年

学会事業年表

2002年度（平成14年度）の学会の動き

環境アセスメント学会設立準備委員会（委員長 猿田勝美 神奈川大学名誉教授）の呼びかけにより、環境アセスメント学会設立総会が中央大学後楽園キャンパスにおいて、会員110名の出席のもとに開催された。引き続き、会長選挙を実施し、島津康男名古屋大学名誉教授が初代会長に選任された。その後、第2回総会、研究発表大会、公開セミナーが開催された。環境省の「戦略的環境アセスメント総合研究会」等の結果を受け、国交省などがPI（パブリックインボルブメント）手法をまとめ始める。

○ 学会活動

- 12月5日 第1回環境アセスメント学会呼びかけ人会開催、(社)日本環境アセスメント協会会議室(2001年)
- 1月23日 第2回環境アセスメント学会呼びかけ人会開催、弘済会館
- 3月4日 第3回環境アセスメント学会呼びかけ人会開催、(社)日本環境アセスメント協会会議室
- 4月20日 アセスメント学会設立総会開催、中央大学後楽園キャンパス
- 8月29日 第1期会長選挙開票
- 9月28日 第2回総会・大会シンポジウム「環境アセスメント学会に期待する」明海大学
- 2月20日 国際シンポジウム「戦略的環境アセスメントの効果的な実施のために－各国の実例に学ぶ－」三田共用会議所（本学会後援）
- 2月22日 公開セミナー「住民参加による政策形成は可能か－三番瀬円卓会議を例にして－」明海大学不動産学部
- 3月31日 学会誌第1巻1号／会長挨拶／設立総会報告／大会報告ほか



研究大会シンポジウム パネルディスカッションの島津会長

○ 関連する社会の動き

【国内】

- 8月 国土交通省「市民参画型道路計画プロセスのガイドライン」
- 10月 環境省「大気・水・環境負荷分野の環境影響評価技術検討会報告書 大気・水・環境負荷分野の環境影響評価技術（III）〈環境保全措置・評価・事後調査の進め方〉」
- 12月 「自然再生推進法」公布
- 3月 環境省「環境アセスメントベースマップ整備マニュアル」
- 3月 「循環型社会形成推進基本計画」閣議決定

【国際】

- 4月 「第6回生物多様性条約締約国会議」開催
- 6月 IAIAO2 大会テーマ「インパクト・アセスメントの評価」（オランダ）
- 8月 「ヨハネスブルグサミット」開催
- 10月 「気候変動枠組条約第8回締約国会議」（COP8）開催

2003年度（平成15年度）の学会の動き

EUでは、政策や計画案の環境評価に関する指令(2001年7月)に基づく「戦略的環境アセスメント」の導入が進んだ。わが国でも、東京都や埼玉県において計画段階環境アセスメント制度が導入され、環境省では廃棄物分野における戦略的環境アセスに関してケーススタディの実施や海外事例に係る情報収集が行われた。学会では、制度部会を中心に計画段階アセス制度について検討が行われた。

○ 学会活動

- 5月30日 生態系研究部会第1回定例会「ヤマトシジミのHSIモデル構築と生息環境の評価」武蔵工業大学横浜キャンパス
- 6月18日 制度研究部会第1回定例会「環境アセスメント制度の動向について」環境省会議室
- 7月4日 生態系研究部会第2回定例会「生態系の定量的評価手法への期待と課題」武蔵工業大学横浜キャンパス
- 9月1日 学会誌第1巻2号／特集「環境アセスメントにおける生態系の評価」／研究論文／IAIAレポート
- 10月3日 第3回総会、東京工業大学すずかけ台キャンパス（規約改定等）
- 10月3日 大会シンポジウム「方法書のあり方を考える」東京工業大学
- 12月1日 生態系研究部会第3回定例会「川の自然再生の取り組みについて」武蔵工業大学横浜キャンパス
- 12月5日 第1回日韓EIAワークショップ「韓国環境アセスメント制度の新展開」（東京）
- 1月30日 学会誌第2巻1号／特集「GIS と環境アセスメント」／大会報告／研究論文／日韓WS／IAIAレポート／書評／内外動向ほか
- 2月20日 制度研究部会第2回定例会「国及び地方自治体における最近のSEAの動向～計画策定段階における適用事例研究～」環境省会議室



研究大会における発表（東京工業大学）



第1回日韓EIAワークショップ（東京）

○ 関連する社会の動き

【国内】

- 4月 国土交通省「一般空港における新たな空港整備プロセスのあり方（案）」
- 6月 国土交通省「国土交通省所管の公共事業の構想段階における住民参加手続きガイドライン」
- 8月 国土交通省「港湾の公共事業の構想段階における住民参加手続きガイドライン」
- 11月 環境省「一般廃棄物処理計画策定における 戦略的環境アセスメント試行ガイドライン」
- 3月 環境省「諸外国の政策段階における戦略的環境影響評価制度調査 報告書」

【国際】

- 4月 「国連持続可能な開発委員会（CSD）第11回会合」開催（国連本部）
- 6月 IAIA03 大会テーマ「影響評価のための能力開発」（モロッコ）
- 12月 「気候変動枠組条約第9回締約国会議（COP9）」開催（イタリア）
- 2月 「生物多様性条約第7回締約国会議」開催（マレーシア）

2004年度（平成16年度）の学会の動き

10月に研究大会を沖縄大学で開催し、シンポジウム「沖縄の開発と環境アセスメント」において緊急アピールの採択について議論した。環境影響評価法の施行に係る基本的事項が改正され、各種の指針等が示された。また、自治体によるSEAの取組を追う形で国もSEAの海外事例について情報収集が行われ、これらのテーマに関して学会制度部会で検討が行われた。

○ 学会活動

5月15日 第4回総会、中央大学後楽園キャンパス

7月2日 生態系研究部会第4回定例会「海外の定量的生態系評価の現状と傾向」武蔵工業大学横浜キャンパス

8月27日 生態系研究部会第5回定例会「オオタカの生態と生息環境-現地調査の知見も含めて-」武蔵工業大学横浜キャンパス

8月31日 制度研究部会第3回定例会「海外における最近のSEAの動向及び事例」環境省会議室

9月27日 学会誌第2巻2号/特集「国際協力と環境アセスメント」/会長挨拶/研究論文/IAIAレポート

10月16日 研究大会、現地主催シンポジウムⅠ「沖縄の開発と環境アセスメント」沖縄大学

10月17日 研究大会、学会主催シンポジウムⅡ「「撤去」と「再生」のための環境アセスメント」沖縄大学

11月17日 日韓EIAワークショップ「戦略的環境アセスメントに向けての新たな動き」（韓国）

2月23日 制度研究部会第4回定例会「環境影響評価の基本的事項に関する技術検討委員会報告」環境省会議室

3月26日 第2期役員選挙の開票

2月28日 学会誌第3巻1号/大会報告・シンポジウム「沖縄の開発と環境アセスメント」「撤去と再生のための環境アセスメント」/研究論文/日韓WS/書評ほか



大会シンポジウムⅠパネルディスカッションでコーディネートを務める桜井理事



大会シンポジウムⅡパネルディスカッションでコーディネートを務める石川副会長


○ 関連する社会の動き

【国内】

- 6月 「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」（外来生物法）制定
- 3月 環境省「地域配慮型環境アセスメント促進事業報告書」（わかりやすい方法書（良好事例））
- 3月 環境省「諸外国の戦略的環境影響評価制度調査報告書」
- 3月 環境省「諸外国の環境影響評価制度調査報告書」
- 3月 「環境影響評価の基本的事項に関する技術検討委員会 報告」（第二種事業判定基準、環境影響評価項目等選定指針、環境保全措置指針）

【国際】

- 4月 IAIA04 大会テーマ「産業開発のための影響評価 誰のためのビジネスなのか？」（カナダ）
- 4月 「国連持続可能な開発委員会」第12回会合（CSD12）開催
- 12月 「気候変動枠組条約第10回締約国会議（COP10）開催
- 2月 京都議定書が、発効条件を満たし発効

<p>2005年度（平成17年度）の学会の動き</p> <p>愛知万博の開催中である9月に、愛知学院大学で大会を開催し、藤前干潟や中部空港、愛知万博等の環境アセスメント事例について議論が行われた。環境アセスメント技術ガイドは、2000年頃に発行されていたが、その後の知見の集積や技術的手法等の進展を踏まえて見直しが行われ、大気・水・土壌等の生活環境分野と生物多様性・自然等ふれあい等の自然環境分野に係る技術ガイドが作成された。</p>	
<p>○ 学会活動</p> <p>5月14日 第5回総会、中央大学後楽園キャンパス（広告掲載料と賛助会員の恩典等）</p> <p>7月22日 生態系研究部会第6回定例会「野生動物の生息地評価－欧州における事例とGISの適用について－」武蔵工業大学横浜キャンパス</p> <p>7月29日 学会誌第3巻2号／特集「大気汚染に関する予測・評価技術」／研究論文／IAIAレポート／内外動向／書評ほか</p> <p>9月2日 研究大会シンポジウムⅠ「新アセス法は生かされるか－東海地方の事例をもとに検証する－」愛知学院大学</p> <p>9月3日 研究大会シンポジウムⅡ「愛知万博の環境アセスメント」愛知学院大学</p> <p>9月7日 制度研究部会第5回定例会「埼玉県における戦略的環境アセスメントの取組について」環境省会議室</p> <p>10月26日 生態系研究部会第7回定例会「浅海域における生態系定量評価に向けた試み」武蔵工業大学横浜キャンパス</p> <p>2月3日 制度研究部会第6回定例会「景観法の概要と施行状況について」環境省会議室</p> <p>2月15日 学会誌第4巻1号／大会報告・シンポジウム「新アセス法は生かされるか－東海地方の事例をもとに検証する－」「愛知万博の環境アセスメント」／研究論文ほか</p>	
<p>○ 関連する社会の動き</p> <p>【国内】</p> <p>3月～9月 愛・地球博開催（“自然の叡智”をテーマとし、121カ国4国際機関が参加）</p> <p>9月 国土交通省道路局「構想段階における市民参画型道路計画プロセスのガイドライン」</p> <p>10月 地方環境事務所が発足</p> <p>11月 「自然公園法施行令及び自然環境保全法施行令の一部を改正する政令」公布（特別保護地区等における動植物の放出等への対処）</p> <p>1月 (社)日本環境アセスメント協会「大気・水・土壌・環境負荷－環境アセスメント技術ガイド」</p> <p>2月 「石綿による健康被害の救済に関する法律」が制定</p> <p>3月 環境省「諸外国の戦略的環境影響評価制度導入状況調査報告書」</p> <p>3月 「鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律施行規則の一部を改正する省令」公布（狩猟を活用した鳥獣の適切な保護管理を進める）</p> <p>【国際】</p> <p>4月 国連持続可能な開発委員会第13回会合（CSD13）開催（国連本部）</p> <p>5月 IAIA05ボストン大会テーマ「倫理と品質」（米国）</p> <p>9月 IAIAシンポジウム「SEAに係る国際的な経験と展望」（チェコ）</p> <p>11月 気候変動枠組条約第11回締約国会議（COP11）及び京都議定書第1回締約国会合（COP/MOP1）開催（～12月）（カナダ）</p>	
	 <p>IAIAボストン大会 基調講演者と Fuggle会長（右端）</p>

2006年度（平成18年度）の学会の動き

パブリック・インボルブメントや自治体のアセス制度の研究、景観・河川・土壌のアセス技術、韓国高速道路撤去プロジェクトなどに関する検討会、シンポジウム等が実施された。国際面では、前年に引き続きCSD（持続可能な開発）や気候変動、生物多様性の条約に係る国際会議が開催された。また、研究面では生態系モデルに関する論文数がピークに達した。

○ 学会活動

- 5月13日 第6回総会、中央大学後楽園キャンパス（奨励賞の設置等）
- 7月14日 生態系研究部会第8回定例会「横浜市の環境アセスメント・・・開発行為を伴う事業の事例から」武蔵工業大学横浜キャンパス
- 8月10日 学会誌第4巻2号／特集「地下水の予測・評価技術（理論編）」／会長挨拶／研究論文／事例・技術報告／IAIAレポート／書評ほか
- 9月1日 日韓EIAワークショップ「撤去と復元の環境アセスメント-日本橋と清溪川（チョンゲチョン）日韓の事例から-」（横浜）
- 9月2日 研究大会、本部主催シンポジウム「『景観法』の時代における環境アセスメント」武蔵工業大学横浜キャンパス
- 9月14日 制度研究部会第7回定例会「河川事業の計画段階における環境影響の分析方法の考え方の試行について」環境省会議室
- 12月1日 生態系研究部会第9回定例会「環境アセスメントにおける土壌インベントリーの新たな位置づけ」武蔵工業大学横浜キャンパス
- 1月15日 制度研究部会第8回定例会「我が国におけるP I（パブリック・インボルブメント）の実状と課題」環境省会議室
- 2月20日 学会誌第5巻1号／大会報告シンポジウム「『景観法』の時代における環境アセスメント」／小特集：「国際協力機関の環境社会配慮：JICAのガイドラインと運用」、研究報告／技術・事例報告／日韓WS／内外動向／書評ほか
- 3月1日 第1回奨励賞
研究者部門：臼井 寛二（国際協力機構）
実務者部門：伴 武彦（株）ポリテック・エイディディ
- 3月25日 第3期役員選挙の開票



研究大会ポスターセッション



第1回奨励賞授賞式：左から伴会員、浅野会長、臼井会員

○ 関連する社会の動き

【国内】

- 4月 「温室効果ガスの算定・報告・公表制度（ホームページ）」
- 4月 「環境基本計画-環境から拓く 新たなゆたかさへの道-」閣議決定
- 6月 「鳥獣保護法」改正（狩猟規制の見直し、鳥獣の保護施策の強化）
- 3月 戦略的環境アセスメント総合研究会「戦略的環境アセスメント総合研究会報告書」

【国際】

- 5月 「国連持続可能な開発委員会」第14回会合（CSD14）開催
- 5月 IAIA06 大会テーマ「パワー、貧困、持続可能性 影響評価の役割」（ノルウェー）
- 5月 映画「不都合な真実」（主演）アル・ゴア公開
- 11月 「気候変動枠組条約第12回締約国会議」（COP12）開催

2007年度（平成19年度）の学会の動き

アセス法制定（1997年）から10年経過したことを踏まえ、研究大会では「アセス法運用の10年」と題したシンポジウムを開催、アセス法の課題等、計画段階アセス・SEAに係る講演会を実施した。国では、戦略的環境アセスメント導入ガイドラインを公表し、アセス技術ガイド（景観等）やまちづくり関連ガイドライン等を作成したほか、環境立国戦略、循環型社会形成推進基本計画、生物多様性国家戦略が閣議決定された。

○ 学会活動

- 5月12日 第7回総会、中央大学後楽園キャンパス
- 5月29日 制度研究部会第9回定例会「戦略的環境アセスメント総合研究会報告（SEA導入ガイドライン）について」環境省会議室
- 6月8日 制度研究部会第10回定例会「農業農村整備における環境対策の現状と課題について」環境省会議室
- 8月10日 学会誌第5巻2号／特集「戦略的環境アセスメントの制度と実態」／技術・事例報告／内外動向／IAIAレポート／書評ほか
- 9月7日 研究大会シンポジウム「環境影響評価法運用の10年」明治大学駿河台キャンパス
- 11月8日 制度研究部会第11回定例会「アセス法制度の課題と改善点」環境省会議室
- 12月11日 制度研究部会第12回定例会「生活環境分野におけるアセスメントの技術的支援のあり方」環境省会議室
- 12月20日 生態系研究部会第10回定例会「地球温暖化対策の枠組みにおける森林」武蔵工業大学横浜キャンパス
- 1月9日 制度研究部会第13回定例会「生物多様性分野におけるアセスメントの技術的支援のあり方」環境省会議室
- 3月1日 奨励賞 研究者部門：該当者なし
実務者部門：林 希一郎（名古屋大学）
- 3月7日 学会誌第6巻1号／大会報告・シンポジウム「環境影響評価法運用の10年」／研究論文／IAIAレポート
研究大会シンポジウム基調講演する浅野会長
- 3月11日 制度研究部会第14回定例会「計画段階環境影響評価制度の現状と今後の課題について」明治大学駿河台キャンパス



○ 関連する社会の動き

- 【国内】**
- 4月 環境省「戦略的環境アセスメント導入ガイドライン」
- 6月 「21世紀環境立国戦略」閣議決定
- 11月 「第三次生物多様性国家戦略」閣議決定
- 3月 環境省「環境影響評価技術ガイド 景観」
- 3月 環境省「干潟生態系に関する環境影響評価技術ガイド」
- 3月 環境省「まちづくりのヒント発見の手引き」
- 3月 環境省「サステイナブル都市再開発ガイドライン」
- 3月 「第二次循環型社会形成推進基本計画」閣議決定
- 【国際】**
- 4月 「国連持続可能な開発委員会」第15回会合（CSD15）開催（ニューヨーク）
- 6月 IAIA07 大会テーマ「成長、保全、責任」（韓国）
- 11月 IPCC「第4次評価報告書統合報告書の政策決定者向け要約（SPM）」及び本編を承認・公表
- 12月 「気候変動枠組条約第13回締約国会議（COP13）」等開催（インドネシア）

2008年度（平成20年度）の学会の動き

小冊子「環境アセスメントを活かそう『環境アセスメントの心得』」を作成し、会員に配布された。研究大会や制度部会では、不確実性をテーマにシンポジウムや講演会が開催され、また6月に成立した生物多様性基本法や生態系評価と水質評価の融合について講演会が実施された。

○ 学会活動

- 4月1日 小冊子「環境アセスメントを活かそう『環境アセスメントの心得』」
- 5月17日 第8回総会、中央大学後楽園キャンパス
- 8月25日 学会誌第6巻2号／特集「環境アセスメントと合意形成」／研究論文／技術・事例報告／IAIAレポートほか
- 8月26日 生態系研究部会第11回定例会「生物多様性基本法の成立とこれからの環境アセスメント」武蔵工業大学横浜キャンパス
- 9月12日 研究大会シンポジウム「環境影響評価法の見直しに向けて - 不確実性の取り扱いを中心に -」大阪市立大学 杉本キャンパス
- 11月28日 日韓EIAワークショップ「日韓環境アセスメントの現場から学ぶ」（韓国）
～29日
- 12月16日 生態系研究部会第12回定例会「生態系評価と水質評価の融合 - 三河湾の事例より -」明治大学駿河台キャンパス
- 2月4日 制度研究部会第15回定例会「地球温暖化予測の不確実性をどう考えるか」明治大学 駿河台キャンパス
- 3月1日 奨励賞 研究者部門：持木 克之（埼玉県）
実務者部門：佐藤 律子（日本工営(株)）
- 3月15日 学会誌第7巻1号／大会報告・シンポジウム「環境影響評価法の見直しに向けて - 不確実性の取り扱いを中心に -」／特集「干潟生態系の環境影響評価技術」／研究論文／研究報告／技術・事例報告／日韓WS／内外動向／書評ほか
- 3月29日 第4期役員選挙の開票
- 3月31日 制度研究部会第16回定例会「土地区画整理事業の計画決定の処分性を認めた最高裁判決（平成20年9月10日）について」明治大学 駿河台キャンパス



2008年日韓EIAワークショップ
鹿島会長の挨拶

○ 関連する社会の動き

【国内】

- 4月 国土交通省「公共事業の構想段階における計画策定プロセスガイドライン」
- 6月 「生物多様性基本法」公布
- 10月 自然再生推進法に基づく「自然再生基本方針」の変更について（第1回変更） 閣議決定
- 3月 環境省「道路及び鉄道建設事業における河川の濁り等に関する環境影響評価ガイドライン」

【国際】

- 5月 IAIA08 大会テーマ「影響評価のアートと科学」（オーストラリア）
- 5月 国連持続可能な開発委員会第16回会合（CSD16）開催（国連本部）
- 5月 生物多様性条約第9回締約国会議（COP9）（ボン）
- 11月 IAIAシンポジウム「累積的環境影響の評価と管理」（カナダ）
- 3月 SATOYAMAイニシアティブ国際ワークショップの開催（東京）



IAIAバース大会で会長就任挨拶 原科副会長

2009年度（平成21年度）の学会の動き

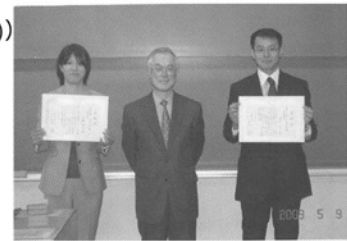
研究大会において、IAIAのTRAINING MANUALを利用したワークショップが開催されるとともに、大幅な法改正に係るアセス法改正総合研究会報告書について議論が行われた。また、2010年度に開催予定の生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）に向け、講演会等を実施した。

○ 学会活動

- 5月9日 第9回総会、中央大学後楽園キャンパス
- 5月28日 生態系研究部会第13回定例会「生物多様性条約締約国会議COP10に向けての生物多様性総合評価」東京都市大学横浜キャンパス
- 6月18日 制度研究部会第17回定例会「地球温暖化『日本への影響』-長期的な気候安定化レベルと影響リスク評価-」明治大学 駿河台キャンパス
- 8月25日 学会誌第7巻2号/特集「生物多様性条約COP10と環境アセスメントの動向」/公開セミナー「アセス審査のあり方について」/技術・事例報告/内外動向/IAIAレポートほか
- 9月12日 大会トレーニングワークショップ「EIA審査の国際基準-UNEPトレーニングキットより」明治大学 駿河台キャンパス
- 9月12日 大会シンポジウム「アセス法改正 総合研究会報告書について」明治大学 駿河台キャンパス
- 12月16日 生態系研究部会第14回定例会「ダム撤去における球磨川荒瀬ダムの位置づけ-荒瀬ダム撤去におけるHEP調査の可能性-」
- 12月21日 生態系研究部会第15回定例会「生物多様性オフセットとは？ CBD/COP10を前にその国際動向を学ぶ」名古屋大学東山キャンパス
- 2月25日 学会誌第8巻1号/大会報告・シンポジウム「アセス法改正総合研究会報告書について」/研究論文/技術・事例報告/IAIAレポート/内外動向/書評ほか
- 3月1日 奨励賞 研究者部門：朝賀 広伸（沖縄大学）
実務者部門：真田 純子（パシフィックコンサルタンツ(株)）



研究大会シンポジウム アセス制度総合研究会報告書を巡る議論（明治大学）



2008年度奨励賞授賞式(2009年総会にて) 左から佐藤会員、鹿島会長、持木会員

○ 関連する社会の動き

【国内】

- 8月 環境省「生物多様性民間参画ガイドライン（第1版）」
- 3月 環境省「道路事業における温室効果ガス排出量に関する環境影響評価ガイドライン」
- 3月 「生物多様性国家戦略2010」閣議決定（名古屋市で開催される生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）に向けた取組等を視野）
- 3月 中環審答申「今後の環境影響評価制度の在り方について」を受け、「環境影響評価法の一部を改正する法律案」閣議決定

【国際】

- 5月 「国連持続可能な開発委員会第17回会合」（CSD17）開催（国連本部）
- 5月 IAIA09 大会テーマ「影響評価と人間の幸福」開催（ガーナ）
- 10月 「SATOYAMAイニシアティブに関するアジア太平洋地域有識者会合」開催（マレーシア）
- 12月 「気候変動枠組条約第15回締約国会議」（COP15/MOP5）開催（デンマーク）

2010年度（平成22年度）の学会の動き

研究大会で「生物多様性保全における環境アセスメントの役割」と題したシンポジウムが開催され、生物多様性に関連する講習会（オフセット・バンキング、ノーネットロス、GAIA、SEA）が実施された。また、CSD18やCOP10に関する講習会が開催され、アセス審査会のあり方についての小冊子を作成し、会員に送付された。

○ 学会活動

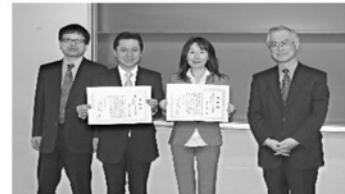
- 4月1日 生態系研究部会第16回定例会「生物多様性オフセット・バンキングの日本における展望」環境パートナーシップオフィス
- 5月15日 第10回総会、中央大学後楽園キャンパス（常務理事の定員の改定等）
- 6月24日 生態系研究部会第17回定例会「生物多様性ノーネットロス政策の日本への導入の課題」環境パートナーシップオフィス
- 8月6日 生態系研究部会第18回定例会「生物多様性保全型都市づくりを支える環境情報システムGAIA～逗子市の環境アセスメント制度から～」東京都市大学環境情報学部横浜キャンパス
- 8月25日 生態系研究部会第19回定例会「戦略的環境アセスメントと生物多様性オフセットのあり方」環境パートナーシップオフィス
- 8月31日 学会誌第8巻2号／特集「環境アセスメントの歴史に学ぶ－制度導入の経緯を中心に－」／研究論文／技術・事例報告／IAIAレポート／内外動向ほか
- 9月17日 日韓EIAワークショップ「生物多様性と環境アセスメント」（名古屋）
- 9月18日 大会シンポジウム「生物多様性保全における環境アセスメントの役割」名古屋大学 IB情報館
- 1月18日 制度研究部会第18回定例会「CSD/COP10報告」明治大学 駿河台キャンパス
- 2月25日 学会誌第9巻1号／大会報告・シンポジウム「生物多様性保全における環境アセスメントの役割」／研究論文／公開セミナー「事後調査の現状と課題－今後のあり方について」／IAIAレポート／内外動向ほか
- 3月1日 奨励賞 研究者部門：該当者なし 実務者部門：矢代 幸太郎（東京久栄（株））
- 3月1日 小冊子「環境アセスメント審査会ってなに？『環境アセスメント審査会のあり方』」
- 3月27日 第5期役員選挙の開票



研究大会シンポジウムのパネルディスカッション



研究大会 最優秀ポスター賞の千住緑会員



2009年度奨励賞授賞式(2010年総会にて)市川委員長、朝賀会員、真田会員、鹿島会長

○ 関連する社会の動き

【国内】

- 6月 「第3次エネルギー基本計画」閣議決定
- 10月 「生物多様性条約第10回締結国会議」（COP10）開催（名古屋市）
- 1月 環境省「鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引き」

【国際】

- 4月 IAIA10 大会テーマ「グリーンエコノミーへの移行期におけるインパクトアセスメントの役割」開催（スイス）
- 5月 「国連持続可能な開発委員会」第18回会合（CSD18）開催（国連本部）
- 10月 IAIAシンポジウム「IAIA気候変動シンポジウム」開催（デンマーク）
- 11月 IAIAシンポジウム「IAIA気候変動シンポジウム」開催（米国）
- 11月 IAIAシンポジウム「健康、福祉、HIA：より良い仕事、より良い働き方」開催（ニュージーランド）
- 11月 「気候変動枠組条約第16回締約国会議」（COP16/MOP6）開催（メキシコ）
- 3月 「SATOYAMAイニシアティブ国際パートナーシップ」第1回定例会合開催（名古屋市）

2011年度（平成23年度）の学会の動き

2011年3月11日の東日本大震災により、地震や津波、原子力発電所事故による災害が発生した。環境影響評価法が改正され、配慮書手続や報告書手続の新設、交付金事業を対象事業に追加、方法書段階での説明会義務化などが改正された。研究大会では、学会10周年記念シンポジウム「アセス法のこれまでと、これから」が実施され、再エネやアセスの構造と機能などの講演会が行われた。事後調査に関する小冊子が作成された。

○ 学会活動

- 5月7日 第11回総会、中央大学後楽園キャンパス（学生会員の資格に冠する規程の改定等）
- 8月25日 学会誌第9巻2号／特集「スモールアセス・簡易アセスの動向」／小特集「東日本大震災・原発事故とアセスメント」／研究論文／技術・事例報告／IAIAレポート／書評ほか
- 9月30日 大会一般公開シンポジウム「エネルギー政策選択に向けた戦略的環境アセスメント」東京工業大学すずかけ台キャンパス
- 10月1日 大会ワークショップ1「10周年記念出版ワークショップ」東京工業大学すずかけ台キャンパス
- 10月1日 大会ワークショップ2「環境アセスメント関連図書の管理」同上
- 10月1日 大会学会10周年記念シンポジウム「アセス法のこれまでと、これから」同上
- 10月7日 制度研究部会第19回定例会「再生可能エネルギーと環境アセスメント」明治大学駿河台キャンパス
- 10月28日 日韓中EIAワークショップ「環境影響評価と戦略的環境評価の有効性に関する日本・韓国中国三者会議」（中国）
- 11月10日 生態系研究部会第20回定例会「人間社会のベクトルと日本の環境アセスメントの構造と機能の検証」環境パートナーシップオフィス
- 2月15日 学会誌第10巻1号／大会報告・10周年記念シンポジウム「アセス法のこれまでとこれから」／研究論文／技術・事例報告／IAIAレポート／内外動向／書評ほか
- 3月1日 奨励賞 研究者部門：該当者なし
実務者部門：該当者なし
- 3月1日 小冊子「環境アセスメントにおける調査ってな～に？
『調査の在り方～事後調査を中心に～』」



功労賞受賞者：左より島津、清水、猿田
各名誉会員

○ 関連する社会の動き

【国内】

- 4月 「環境影響評価法の一部を改正する法律」公布
- 6月 農林水産省・国土交通省「海岸保全区域等における風力発電施設設置許可に関する運用指針」
- 3月 「環境影響評価法に基づく基本的事項等に関する技術検討委員会報告書」
- 3月 環境省ホームページ「配慮書に関する参考事例」設置（各種の配慮書に関する参考事例：PM2.5、都市再開発、配慮書等）

【国際】

- 5月 国連持続可能な開発委員会第19回会合（CSD19）開催（国連本部）
- 5月 IAIA11 大会テーマ「インフラデベロッパー、企業の経営者や管理者、金融業者、ビジネスリーダーが下す決定が、生態系、文化遺産、人間の福利に対して、短期的・長期的にどのような結果をもたらすのか？」開催（メキシコ）
- 9月 IAIAシンポジウム「SEAの組み込みと実践：インパクトを与えるか？」開催（チェコ）
- 11月 「気候変動枠組条約第17回締約国会議」（COP17/MOP7）開催（南アフリカ）

2012年度（平成24年度）の学会の動き

研究大会において「生物多様性分野の定量評価とミティゲーション・ヒエラルキー」「アセス法改正による地方自治体条例の動向」と題したシンポジウムを開催し、学会誌では地熱発電に関する特集を組み、情報交流をテーマに公開セミナーが実施された。また、再エネ、海外の風力アセスについての講演会を行った。「環境アセスメント学の基礎」の初版を発行し、スモールアセスに係る小冊子を作成し、会員に配布した。

○ 学会活動

- 5月19日 第12回総会、中央大学後楽園キャンパス
- 5月19日 公開セミナー「コミュニケーションについて」中央大学後楽園キャンパス
- 8月31日 学会誌第10巻2号／特集「地熱発電と環境アセスメント」／公開セミナー「コミュニケーションについて」／研究論文／座談会「生物技術の課題」／内外動向／座談会／IAIAレポート他
- 9月29日 大会一般公開シンポジウム「環境アセスメントにおける生物多様性分野の定量評価とミティゲーション・ヒエラルキー」福岡大学七隈キャンパス
- 9月29日 大会企画委員会主催シンポジウム「アセス法改正による地方自治体条例の動向」福岡大学七隈キャンパス
- 11月1日 日韓中EIAワークショップ「持続可能な社会と環境影響評価 -理論・方法・経験から-」（韓国）
- 12月19日 制度研究部会第20回定例会「再生可能エネルギーとアセス制度」明治大学 駿河台キャンパス
- 1月29日 制度研究部会第21回定例会「海外の風力発電に係る環境影響評価」明治大学駿河台キャンパス
- 2月5日 「環境アセスメント学の基礎」初版発行
- 2月26日 第6期役員選挙の開票
- 3月1日 奨励賞 研究者部門：該当者なし
実務者部門：細川 岳洋（アジア航測(株)）
- 3月1日 小冊子「スモールアセスの勧め『自主アセス・ミニアセスなどを中心に』」
- 3月1日 生態系研究部会第21回定例会「生物多様性の保全に関する国際動向について」東京都市大学渋谷サテライト
- 3月15日 学会誌第11巻1号／大会報告・シンポジウム「アセス法改正による地方自治体条例の動向」「環境アセスメントにおける生物多様性分野の定量評価とミティゲーション・ヒエラルキー」／IAIAレポート／内外動向／本の紹介ほか



研究大会エクスカーション（福岡大学）

○ 関連する社会の動き

【国内】

- 4月 「第四次環境基本計画」閣議決定（低炭素、循環、自然共生、安全を位置づけ）
- 5月 国土交通省・環境省「東日本大震災復興特別区域法に基づく特定環境影響評価の技術手引（案）」
- 5月 環境影響評価制度における情報交流手法に係る検討会「環境影響評価制度における情報交流について」
- 6月 経済産業省資源エネルギー庁「風力発電事業に係る環境影響評価実施要綱」
- 9月 「生物多様性国家戦略2012-2020」閣議決定
- 10月 「環境影響評価法施行令の一部を改正する政令」施行（風力追加）
- 3月 環境省計画段階配慮技術手法に関する検討会「計画段階配慮手続に係る技術ガイド」
- 3月 環境省「火力発電所リブレースに係る環境影響評価手法の合理化に関するガイドライン」

【国際】

- 5月 IAIA12 大会テーマ「エネルギーの未来：インパクト・アセスメントの役割」開催（ポルトガル）
- 6月 「国連持続可能な開発会議」（リオ+20）開催（ブラジル）
- 11月 「国連気候変動枠組条約第18回締約国会議」（COP18/MOP8）開催（カタール）（「ドーハ気候ゲートウェイ」を採択）
- 2月 IAIAシンポジウム「影響評価における生物多様性と生態系サービス」開催（米国）

2013年度（平成25年度）の学会の動き

研究大会で「スモールアセス」と「環境アセスメントの新展開」と題したシンポジウムを開催、学会誌では風力発電に関する特集を組み、公開セミナーは風力発電をテーマに実施した。また、生物多様性分野の配慮書や環境保全措置事例、生物多様性地域戦略について講演会を行った。法制度に関して、原発事故を受けて放射性物質がアセス対象になるとともに、風力発電や火力発電、土地区画整理に関するアセス関連資料が公表された。

○ 学会活動

- 5月18日 第13回総会、明治大学駿河台キャンパス（会員種別による資格などの規程の改定等）
- 5月18日 公開セミナー「風力発電施設に係る環境影響評価の現状と課題—今後の方向性について—」
明治大学 駿河台キャンパス
- 6月7日 生態系研究部会第22回定例会「環境アセスメントにおける生物多様性分野の計画段階配慮書
技術ガイド」東京都市大学渋谷サテライト
- 8月23日 生態系研究部会第23回定例会「施工会社の携わる環境保全措置事例」東京都市大学渋谷サテ
ライト
- 8月25日 学会誌第11巻2号／特集「風力発電と環境アセスメント」／洋上風力特集／研究論文／技術・
事例報告／内外動向／IAIAレポート／書評ほか
- 9月14日 大会シンポジウム1「スモールアセス～自主アセス・ミニアセスの動向～」法政大学市ヶ谷
キャンパス
- 9月14日 大会シンポジウム2「環境アセスメントの新展開～配慮書手続の運用の課題と期待」法政大
学市ヶ谷キャンパス
- 11月7日 日韓中EIAワークショップ「持続可能な社会の作法としてのア
～9日 セスメント」（千葉）
- 2月21日 生態系研究部会第24回定例会「SEAにおける生物多様性地域戦
略活用の展望」東京都市大学渋谷サテライトクラス教室
- 2月25日 学会誌第12巻1号／大会報告・シンポジウム「スモールアセス
～自主アセス・ミニアセスの動向～」「環境アセスメントの新
展開～配慮書手続の運用の課題と期待」／研究論文／日韓中会
議ほか
- 3月1日 奨励賞 研究者部門：長谷川 一幸((公財)海洋生物環境研究
所)



研究大会ポスター発表優秀賞を受賞のアンピカダカール会員（中央）

○ 関連する社会の動き

【国内】

- 4月 「環境影響評価法」改正法の完全施行
- 4月 経済産業省・環境省「東京電力の火力電源入札に関する関係局長級会議取りまとめ」（BATの採用、国の目標・計画との整合性の確保等）
- 4月 国土交通省「港湾分野の環境影響評価に関する計画段階環境配慮書作成等ガイドライン」
- 5月 「第三次循環型社会形成推進基本計画」を閣議決定（災害廃棄物、放射性廃棄物の処理等）
- 6月 環境省「風力発電所の環境影響評価のポイントと参考事例」
- 6月 「放射性物質による環境の汚染の防止のための関係法律の整備に関する法律」公布（放射性物質をアセスの対象に）
- 7月 環境省「風力発電事業の円滑な環境アセスメントの実施に向けて」
- 11月 国土交通省「土地区画整理事業に係る計画段階環境配慮書作成の技術手引」

【国際】

- 5月 IAIA13 大会テーマ「次世代の影響評価」開催（カナダ）
- 10月 「水銀に関する水俣条約」外交会議で採択（熊本市・水俣市）

2014年度（平成26年度）の学会の動き

研究大会において「化石エネルギーの有効活用と環境アセスとの関わり」「再生可能エネルギーと環境アセス」と題したシンポジウムを実施、学会誌は「復興アセス」を特集した。環境アセスの情報交流に関する小冊子を発行し、「心得」を改定した。また、里山バンキング、オリンピックアセス等について講習会を開催した。東日本大震災の影響を受けて、小規模火力発電所計画が急増し、その対応が課題となった。

○ 学会活動

- 5月17日 第14回総会、明治大学駿河台キャンパス
- 5月17日 公開セミナー「海域生態系の環境影響評価における現状と技術開発」明治大学駿河台キャンパス
- 7月1日 小冊子「適切な環境配慮を組み込むために『環境アセスメントにおける情報交流の基本』」
- 7月5日 生態系研究部会第25回定例会「里山生態系保全を推進する“里山バンキング”」「わたしの田舎」谷当工房
- 7月15日 制度研究部会第22回定例会「2020東京オリンピックと環境アセスメント」明治大学駿河台キャンパス
- 7月28日 生態系研究部会第26回定例会「都市における水辺の生態系再生」東京都市大学渋谷サテライト
- 8月25日 学会誌第12巻2号／特集「復興アセス」／公開セミナー「環境影響評価における海洋生態系調査の現状と技術開発」／研究論文／技術・事例報告／IAIAレポート／本の紹介ほか
- 9月1日 小冊子「環境アセスメントを活かそう『環境アセスメントの心得ver.2』」
- 9月20日 大会企画委員会主催シンポジウム「化石エネルギーの有効活用と環境アセスメントとの関わり」千葉大学西千葉キャンパス
- 9月20日 大会実行委員会主催シンポジウム「再生可能エネルギーと環境アセスメント」千葉大学西千葉キャンパス
- 12月17日 生態系研究部会第27回定例会「IAIAの生物多様性アセスメントの理想と途上国支援での生態系アセスメントの現実」東京都市大学渋谷サテライト
- 2月15日 第7期役員選挙の開票
- 2月25日 学会誌第13巻1号／大会報告・シンポジウム「化石エネルギーの有効活用と環境アセスメントとの関わり」「再生可能エネルギーと環境アセスメント」／研究論文／全国キャラバン報告
- 3月1日 奨励賞 研究者部門：伊東 英幸（日本大学）
実務者部門：新井 聖司（大日本コンサルタント(株)）



研究大会実行委員会主催シンポジウム

○ 関連する社会の動き

【国内】

- 4月 「第4次エネルギー基本計画」を閣議決定
- 6月 「環境影響評価法に基づく基本的事項等に関する技術検討委員会報告書」（放射性物質の取扱いの追
- 6月 環境省「日本の環境影響評価における生物多様性オフセットの実施に向けて（案）」
- 10月 環境省「小規模火力発電に係る環境保全対策ガイドライン～自治体や事業者の方に広くご活用いただくための環境保全技術先進事例とりまとめ～」
- 1月 環境省「風力発電所のリプレースにおける環境影響評価手法の合理化に関する検討報告書」
- 2月 「瀬戸内海環境保全基本計画」変更について閣議決定
- 3月 環境省「環境影響評価技術ガイド（放射性物質）」

【国際】

- 4月 IAIA14 大会テーマ「社会・経済開発のための影響評価」開催(チリ)
- 10月 IAIAシンポジウム「移住計画と生計手段」開催（南アフリカ）
- 10月 IPCC「第5次評価報告書統合報告書の政策決定者向け要約（SPM）」の承認・公表、統合報告書本体の採択

2015年度（平成27年度）の学会の動き

研究大会では「わが国の環境アセスメントと国際社会」と題したシンポジウムが開催され、学会誌では環境社会配慮に関する特集を組み、技術手法の最新動向をテーマに公開セミナーを実施した。また、北陸新幹線に係るルート変更の問題および軽微な変更について議論した。技術指針に関する小冊子を作成し、会員に配布した。

○ 学会活動

- 5月16日 第15回総会、明治大学駿河台キャンパス
- 5月16日 公開セミナー「環境影響評価に関する技術手法の最新動向」明治大学駿河台キャンパス
- 7月31日 生態系研究部会第28回定例会「北陸新幹線・中池見湿地における環境影響評価手続きと計画ルートについて」東京都市大学渋谷サテライトクラス教室
- 8月10日 学会誌第13巻2号／特集「環境社会配慮」／公開セミナー「環境影響評価に関する技術手法の最新動向（I）」／IAIAレポート／本の紹介ほか
- 9月4日 大会企画委員会主催シンポジウム「わが国の環境アセスメントと国際社会」龍谷大学瀬田キャンパス
- 9月4日 特別講演「滋賀県の環境と環境アセスメント」龍谷大学瀬田キャンパス
- 9月4日 特別集会「『野生生物と交通』の現状とその課題」龍谷大学瀬田キャンパス
- 9月4日 特別集会「地熱発電所など冷却塔排気的环境アセスメント技術」龍谷大学瀬田キャンパス
- 9月5日 特別集会「アセス電子図書の管理」龍谷大学瀬田キャンパス
- 10月15 日韓中EIAワークショップ「私たちが望む環境アセスメント」（韓国）
日～17日
- 2月1日 小冊子「環境アセスメントの技術指針ってな～に？『技術指針のかしこい使い方』」の発行
- 2月4日 制度研究部会第23回定例会「アセス法施行令の軽微変更について」明治大学 1 4号館 6階会議室
- 2月20日 学会誌第14巻1号／大会報告・シンポジウム「わが国の環境アセスメントと国際社会」／技術・事例報告／キャラバン報告／内外動向／本の紹介ほか
- 3月1日 奨励賞 研究者部門：恩地啓実（(公財)海洋生物環境研究所） 実務者部門：中田俊宏（(株)ポリテック・エイディディ）



公開セミナーのパネル討論（明治大学）

○ 関連する社会の動き

【国内】

- 6月 環境省「環境配慮で三方一両得 - 自主的な環境配慮の取組事例集 -」
- 3月 (公財)海洋生物環境研究所「火力発電所等の環境影響評価における海域生態系影響予測に関する基本的考え」
- 3月 環境省「小規模火力発電に係る環境保全対策ガイドライン ～自治体や事業者の方に広くご活用いただくための環境保全技術先進事例とりまとめ～改訂版」

【国際】

- 4月 IAIA15テーマ「デジタル時代の影響評価」開催(イタリア)
- 11月 「国連気候変動枠組条約第21回締約国会議（COP21）」開催（～12月）（フランス）（「パリ協定」を合意。世界共通の長期目標として2℃目標を設定）
- 12月 IAIA 大会シンポジウム「持続可能な巨大インフラとアセスメント」（パナマ）

2016年度（平成28年度）の学会の動き

研究大会では「環境影響評価に関する技術手法の最新動向」と題したシンポジウムを開催、学会誌ではフォローアップに関する特集を組み、公開セミナーは環境社会配慮をテーマに実施した。生物多様性オフセット、エコロジカル・ネットワーク、条例アセス、生物多様性民間参画ガイドライン等について講演会を行った。

○ 学会活動

- 5月14日 第16回総会、名古屋学院大学名古屋キャンパス（役員等の任務に冠する規程の改定等）
- 5月14日 公開セミナー「環境社会配慮と環境アセスメントの現状と課題」名古屋学院大学名古屋キャンパス
- 8月17日 日韓中EIAワークショップ「環境アセスメントと事後管理」（中国）
～20日
- 8月20日 学会誌第14巻2号/特集「フォローアップ」/会長就任あいさつ/セミナー「環境社会配慮とアセスメント」/研究論文/内外動向/本の紹介/アセスメントの動向ほか
- 8月23日 生態系研究部会第29回定例会「日本への生物多様性オフセットの導入に向けた生態系の定量評価について」東京都市大学渋谷サテライトクラス教室
- 9月9日 大会企画委員会主催シンポジウム「環境影響評価に関する技術手法の最新動向（Ⅱ）」中央大学後楽園キャンパス
- 9月9日 特別講演「21世紀の環境政策と環境アセスメント」中央大学後楽園キャンパス
- 9月10日 特別集会「環境関連データのオープンデータソースの動向と課題」中央大学後楽園キャンパス
- 11月2日 生態系研究部会第30回定例会「韓国のエコロジカル・ネットワーク形成における評価手法について」東京都市大学渋谷サテライトクラス教室
- 1月20日 制度研究部会第24回定例会「条例における動向について」日本環境アセスメント協会会議室
- 2月13日 第8期役員選挙の開票
- 2月20日 学会誌第15巻1号/大会報告・シンポジウム「環境影響評価に関する技術手法の最新動向（Ⅱ）」/研究論文/報告論文/キャラバン報告/内外動向/本の紹介/アセスメントの動向 ほか
- 3月1日 奨励賞 研究者部門：該当者なし
実務者部門：田中 亨（株）オオバ
- 3月1日 生態系研究部会第32回定例会「生物多様性民間参画ガイドライン（第2版）と国内の生物多様性オフセット事例」経済産業省
- 3月2日 制度研究部会第25回定例会「環境アセスメントとグリーンインフラ」三菱UFJリサーチ&コンサルティング



バンケット 鏡開き(IAIA名古屋大会)

○ 関連する社会の動き

【国内】


- 6月 環境省「海ワシ類の風力発電施設バードストライク防止策の検討・実施の手引き」
- 7月 国土交通省「港湾における洋上風力発電の占用公募制度の運用指針Ver.1」
- 9月 経済産業省「複数の調査手法を用いた鳥類調査結果について（参考）」
- 11月 風力発電施設から発生する騒音等の評価手法に関する検討会「風力発電施設から発生する騒音等への対応について」
- 3月 環境省「環境影響評価法における報告書の作成・公表等に関する考え方」
- 3月 環境省「洋上風力発電所等に係る環境影響評価の基本的な考え方に関する検討会 報告書」
- 3月 環境省総合環境政策局環境影響評価課監修・環境影響評価課技術手法に関する検討会編集「環境アセスメント技術ガイド 生物の多様性・自然との触れ合い」（一社）日本環境アセスメント協会
- 3月 環境省総合環境政策局環境影響評価課監修・環境影響評価課技術手法に関する検討会編集「環境アセスメント技術ガイド 大気環境・水環境・土壌環境・環境負荷」（一社）日本環境アセスメント協会
- 3月 環境省「小規模火力発電等の望ましい自主的な環境アセスメント実務集」



IAIA第16回大会(名古屋)のロゴ

【国際】

- 5月 IAIA16 大会テーマ「レジリエンスとサステナビリティ」開催(名古屋市)
- 9月 IAIAシンポジウム「水と影響アセスメント」開催(英国)
- 2月 IAIAシンポジウム「移住計画と生計手段」開催(フィリピン)

<p>2017年度（平成29年度）の学会の動き</p> <p>陸上風力発電所の案件が増加し、環境省はゾーニングマニュアルの整備、EADAS(情報システム)リニューアル等を行い、各種のガイドラインを公表した。学会研究大会では、再生可能エネルギーに関するセッションを設け、陸上風力発電をテーマに公開セミナーを実施した。アセス法制定20周年を記念して、記念講演会を環境省、日本環境アセスメント協会とともに開催した。アセス図書を読み解くと題する小冊子を作成した。</p>	
<p>○ 学会活動</p> <p>5月13日 第17回総会、東京工業大学大岡山キャンパス</p> <p>5月13日 公開セミナー「陸上風力発電アセスメントの現状と課題」東京工業大学大岡山キャンパス</p> <p>5月25日 制度研究部会第26回定例会「洋上風力発電の取り扱いについて」日本環境アセスメント協会</p> <p>6月11日 環境影響評価法制定20周年記念講演会「環境影響評価法の20年の歩みを振り返る」ルポール翅</p> <p>6月12日 制度研究部会第27回定例会「環境アセスメントとグリーンインフラ」三菱UFJリサーチ&コンサルティング</p> <p>7月25日 生態系研究部会第31回定例会「環境影響評価における生物多様性保全に関する参考事例集について」東京都市大学渋谷サテライト</p> <p>8月1日 小冊子「環境アセスメント図書を読み解く『準備書はどのように作られているの?』」</p> <p>8月9日 アジア環境アセスメント会議「越境的な開発と影響評価」（ベトナム） ～12日</p> <p>8月10日 学会誌第15巻2号/特集「環境アセスメント法制定20周年」/セミナー「陸上風力発電アセスメントの現状と課題」/研究論文/技術・事例報告/内外動向/本の紹介ほか</p> <p>8月28日 制度研究部会第28回定例会「環境アセスメントとグリーンインフラ2」三菱UFJリサーチ&コンサルティング</p> <p>9月1日 大会実行委員会主催シンポジウム「太陽光発電の普及と環境アセスメント」山梨県立大学飯田キャンパス</p> <p>9月1日 大会特別講演「富士山の保全管理と景観配慮の取り組み」山梨県立大学飯田キャンパス</p> <p>9月1日 大会特別集会「グリーンリージョンと生物多様性オフセットバンキング」同上</p> <p>9月6日 環境社会配慮研究会第12回研究会「ネパール震災復興（住宅・学校セクター）の環境セーフガードについて」国際開発ソリューションズ</p> <p>11月2日 全国キャラバン講習会第6回「講演1：環境アセスメントの意義と最近の動向」ほか。広島市</p> <p>2月20日 学会誌第16巻1号/特別講演報告「富士山の保全管理と景観配慮の取組」/シンポジウム「太陽光発電の普及と環境アセスメント」/研究論文/技術・事例報告/キャラバン報告/内外動向/本の紹介/アセスメントの動向ほか</p> <p>3月1日 奨励賞 研究者部門：錦澤滋雄（東京工業大学） 実務者部門：土門優介（(株)ドーコン）</p>	
	 <p>研究大会懇親会でリユース容器を使用 (山梨県立大学)</p>
<p>○ 関連する社会の動き</p> <p>【国内】</p> <p>4月 環境省「環境影響評価における生物多様性保全に関する参考事例集」</p> <p>5月 環境省「風力発電施設から発生する騒音等測定マニュアルについて」</p> <p>7月 環境省「環境アセスメントのためのよりよいコミュニケーション優良事例集」</p> <p>7月 環境省「風力発電に係る地域主導による適地抽出手法に関するガイド～地方公共団体による適地抽出のための合意形成と環境調査～」</p> <p>9月 経済産業省「鳥類調査結果を用いた影響予測手法等について（参考）」</p> <p>12月 環境影響評価審査の検証・発電事例集 検討委員会「風力発電所の環境影響評価の実施に係る事例」</p> <p>3月 国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構「環境アセスメント迅速化手法のガイド～前倒環境調査の方法論を中心に～」</p> <p>3月 環境省「風力発電に係る地方公共団体によるゾーニングマニュアル（第1版）」</p> <p>【国際】</p> <p>4月 IAIA17 大会テーマ「気候変動に対するグローバルな取り組みにおけるインパクトアセスメントの貢献」開催（カナダ）</p> <p>11月 IAIAシンポジウム「ミティゲーションヒエラルキーの主流化」開催（米国）</p>	

2018年度（平成30年度）の学会の動き

研究大会において「環境アセスメントが活用されるための人・基盤づくり」と題したシンポジウムを開催し、学会誌ではCCSに関する特集を組み、グリーンインフラをテーマに公開セミナーを実施した。ポジティブ・アセス、太陽光、ノーネットロスについての講演会を行った。前年までに作成した小冊子を活用して、書籍「環境アセスメント学入門－環境アセスメントを活かそう－」をまとめ発行した。

○ 学会活動

- 5月19日 第18回総会、中央大学後楽園キャンパス
- 5月19日 公開セミナー「環境アセスメントとグリーンインフラ」中央大学後楽園キャンパス
- 6月26日 制度研究部会第29回定例会「ポジティブ・アセスについて」日本環境アセスメント協会会議
- 7月17日 制度研究部会第30回定例会「東京都環境影響評価制度の見直し－中間のまとめについて」明治大学駿河台キャンパス
- 8月10日 学会誌第16巻2号／特集「CCSと環境アセスメント」／セミナー「環境アセスメントとグリーンインフラ」／報告論文／内外動向／本の紹介／アセスメントの動向ほか
- 8月20日 アジア環境アセスメント会議（AIC）「グリーン・リージョンとインパクトアセスメント」（静～22日 岡）
- 9月1日 大会企画委員会シンポジウム「環境アセスメントが活用されるための人・基盤づくり」法政大学市ヶ谷キャンパス
- 9月2日 特別集会「環境アセスメント資料のアーカイブ化に向けて」法政大学市ヶ谷キャンパス
- 2月14日 制度研究部会第31回定例会「太陽光発電施設等に係る環境影響評価の基本的考え方に関する検討会報告書（案）について」日本環境アセスメント協会会議室
- 2月20日 学会誌第17巻1号／大会報告・シンポジウム「環境アセスメントが活用されるための人・基盤づくり」／研究論文／報告論文／キャラバン報告／内外動向／本の紹介／環境アセスメントの動
- 2月24日 第9期役員選挙の開票
- 2月28日 「環境アセスメント学入門－環境アセスメントを活かそう－」初版発行
- 3月1日 奨励賞 研究者部門：吉田毅郎（東京大学生産技術研究所） 実務者部門：藤井清香（いであ(株)）
- 3月1日 生態系研究部会第33回定例会「（株）ブリヂストンの環境の取り組み～生物多様性ノーネットロスに向けて～」東京都市大学渋谷サテライトクラス教室



第12回AIC静岡大会参加者


○ 関連する社会の動き

【国内】

- 4月 環境省「最近の風力発電所に係る環境影響評価手続きの迅速化状況」
- 4月 「第五次環境基本計画」閣議決定
- 6月 環境省「太陽光発電事業の環境保全対策に関する自治体の取組事例集」
- 6月 「第四次循環型社会形成推進基本計画」閣議決定
- 7月 「第5次エネルギー基本計画」閣議決定
- 11月 環境省「環境影響評価法に基づく基本的事項に関する技術検討委員会報告書」
- 3月 環境省「太陽光発電施設等に係る環境影響評価の基本的考え方に関する検討会報告書」

【国際】

- 5月 IAIA18 大会テーマ「移行期における環境正義」開催（南アフリカ）
- 10月 IAIAシンポジウム「アジアにおける影響アセスメントを利用したSDGsの達成」開催（マレーシア）
- 10月 IPCC「1.5°C特別報告書」政策決定者向け要約（SPM）
- 12月 IAIAシンポジウム「鉱業における影響アセスメントや管理」開催（イギリス）

<p>2019年度（平成31年度／令和元年度）の動き</p> <p>研究大会では、大阪万博の開催が決定したことを受けて「湾岸未来都市のあるべき環境像を模索する」と題するシンポジウムを開催した。また、アセス事例を読み解き、アセスが果たした役割などについて小冊子をまとめ、公開セミナーは過去のアセス事例をテーマに実施した。学会誌では審査会に関する特集を組み、今後の法改正の方向性やサンゴのオフセットについて講演会を行った。</p>	
<p>○ 学会活動</p>	
<p>5月18日 第19回総会、法政大学市ヶ谷キャンパス</p> <p>5月18日 公開セミナー「過去の環境アセスメントに学ぶ」法政大学市ヶ谷キャンパス</p> <p>5月31日 制度研究部会第32回定例会「環境影響評価法の今後の改正案のあり方と方向性を考える（1）」日本環境アセスメント協会会議室</p> <p>7月25日 制度研究部会第33回定例会「環境影響評価法の今後の改正案のあり方と方向性を考える（2）」明治大学駿河台キャンパス</p> <p>8月1日 生態系研究部会第34回定例会「地域社会特性と生態系サービスを考慮したサンゴのオフセット～バヌアツ共和国の港湾開発事業の事例～」東京都市大学横浜キャンパス</p> <p>8月10日 学会誌第17巻2号／特集「環境影響審査会の役割と課題」／セミナー「過去の環境アセスメントに学ぶ」／研究論文／技術・事例報告／内外動向／本の紹介／環境アセスメントの動向</p> <p>8月21日 アジア環境アセスメント会議「アジアにおける環境アセスメントの理論と実践」（中国）～23日</p> <p>9月7日 大会企画委員会・大会実行委員会共催シンポジウム「湾岸未来都市のあるべき環境像を模索する」大阪市立大学杉本キャンパス</p> <p>2月20日 学会誌第18巻1号／追悼特集「環境アセスメント学会初代会長 島津康男氏を悼む」／大会報告・シンポジウム「湾岸未来都市のあるべき環境像を模索する」／研究論文／報告論文／キャラバン報告／内外動向／アセスメントの動向</p> <p>3月1日 奨励賞 研究者部門：該当者なし 実務者部門：仲條竜太（アジア航測㈱）</p> <p>3月1日 小冊子「事例で読み解くアセスの効果（役割）『アセスに関わって地域を良くしよう！』」</p>	 <p>研究大会エクスカーションで大阪万博予定地を見学</p>
<p>○ 関連する社会の動き</p>	
<p>【国内】</p> <p>5月 海洋プラスチックごみ対策の推進に関する関係閣僚会議「海洋プラスチックごみ対策アクションプラン」</p> <p>12月 気象庁「風力発電施設が気象観測レーダーに及ぼす影響」</p> <p>3月 環境省「太陽光発電の環境配慮ガイドライン」</p> <p>3月 環境省「風力発電に係る地方公共団体によるゾーニングマニュアル（第2版）」</p>	
<p>【国際】</p> <p>4月 IAIA19 大会テーマ「進化か革命か：インパクトアセスメントの次なる段階は？」開催（オーストラリア）</p> <p>6月 G20大阪サミット「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」</p>	

2020年度（令和2年度）の動き

再エネ海域利用法が2019年に施行され、洋上風力発電のアセス案件が増加している現状を受けて、研究大会では「洋上風力発電と環境アセスメント」と題したシンポジウムを開催し、特別集会としてJICA環境社会配慮ガイドライン施行10年をテーマに議論した。新型コロナ感染者が2020年3月から急激に増加したことから、総会や研究大会、委員会等はオンライン方式の開催となった。学会誌では調査・予測技術に関する特集を組み、またIAIA文書やHSIモデルについてホームページで公開したり、学会誌に掲載したほか、オンラインを活用した研究会を実施した。

○ 学会活動

- 5月23日 第20回総会、電子メール・郵送による表決（第10期役員等）・公開セミナーは中止
- 8月10日 学会誌第18巻2号／特集「これからの調査・予測技術」／会長就任あいさつ／報告論文／研究論文／環境アセスメントの動向ほか
- 9月5日 大会企画委員会主催シンポジウム「洋上風力発電と環境アセスメント」オンライン方式、桜美林大学
- 9月5日 大会特別集会「JICA環境社会配慮ガイドライン-10年の歩みと改定へ向けて-」オンライン方式、桜美林大学
- 10月1日 学会誌・学会ウェブサイトでのHSIモデルの紹介（生態系研究部会）



研究大会シンポジウムのコーディネーター
村山副会長（左）とパネリスト堀上氏（右）
- 11月1日 IAIA基本文献和訳版を公開（情報委員会）
- 1月7日 情報委員会オンライン学習会「IAIAの基本文献から日本のアセスメントを考える」
- 2月20日 学会誌第19巻1号／大会報告・シンポジウム「洋上風力発電と環境アセスメント」／本の紹介環境アセスメントの動向ほか
- 2月24日 サロン会「戦略的環境アセスメント」「スモールアセスの勧め」オンライン方式
- 2月25日 制度研究部会第34回定例会「IAIA文書を読み解く（その1）持続可能性・戦略アセス」オンライン方式
- 3月1日 奨励賞 研究者部門：該当者なし
実務者部門：石塚隆記（イー・アンド・イーソリューションズ(株)）
- 3月8日 第10期役員選挙の開票
- 3月12日 要請書「2025年日本国際博覧会における持続可能性アセスメントの実施について」送付
- 3月25日 制度研究部会第35回定例会「IAIA文書を読み解く（その2）累積的影響、波及影響の評価」オンライン方式
- 3月26日 第2回国際交流委員会・生態系研究部会第35回定例会「赤道原則と邦銀による投融資～環境アセスメントと生物多様性オフセットに焦点をあてて～」オンライン方式
(中止) AIC2020は、ベトナム開催予定が新型コロナウイルスの影響で中止

○ 関連する社会の動き

- 【国内】**
- 4月 環境省「風力発電所のリブレースに係る環境影響評価の合理化に関するガイドライン」
 - 5月 環境省「生物多様性民間参画事例集—事業者による取組の参考のために—」
 - 5月 環境省「生物多様性・自然資本に関する企業情報開示のグッドプラクティス集」
 - 10月 2050年カーボンニュートラル宣言（第203回国会菅内閣総理大臣所信表明演説）
 - 3月 「再生可能エネルギーの適正な導入に向けた環境影響評価のあり方に関する検討会報告書」（法対象となる風力発電所の規模要件を含め風力発電所に係る環境影響評価制度の適正なあり方について）
 - 3月 「再生可能エネルギーの適正な導入に向けた環境影響評価のあり方に関する検討会報告書」[より幅広いスクリーニングの導入、簡易かつ効果的なアセスメント手続の導入]
- 【国際】**
- 10月 IAIA 大会シンポジウム「相互接続された世界：インパクトアセスメント、健康、環境」（オンライン開催）
 - 12月 経協インフラ戦略会議「インフラシステム海外展開戦略 2025」（脱炭素と環境をインフラ政策を中核に加え、脱炭素移行政策誘導型のインフラ輸出支援を推進）
 - (中止) IAIA20大会テーマ「インパクトアセスメントのスマート化」（スペイン）

2021年度（令和3年度）の動き

研究大会においてシンポジウム「ビックデータと環境アセスメント」を開催し、学会誌では環境社会配慮に関する特集を組み、「アセスの新たな展開」をテーマに公開セミナーを実施した。配慮書に関する小冊子を作成し、会員に配布した。また、①学会規約第34条に基づく委員会の設置等に係る規程の整備、②10年以上正会員を継続し会費完納の70歳以上を対象とするシニア会員制度の導入、③中堅の研究者・実務者を対象とした新たな表彰制度の創設を行った。学会事務業務に関する委託契約を毎日学術フォーラムと結んだ。

○ 学会活動

- 5月22日 公開セミナー「環境アセスメントの新たな展開」オンライン方式（ZOOMウェビナー）
- 5月22日 第21回総会、オンライン（シニア会員制の導入等）
- 6月25日 制度研究部会第36回定例会「環境影響評価法と再生可能エネルギーの促進（風力発電所規模要件、改正温暖化対策法など）」
オンライン方式
- 8月10日 学会誌第19巻2号／特集「環境社会配慮の現状」／セミナー
「環境アセスメントの新たな展開」／報告論文／技術・事例報告／環境アセスメントの動向ほか
- 9月1日 小冊子「先手先手の環境配慮が肝心『配慮書を活用しよう』」
- 9月3日 研究大会、実行委員会・企画委員会共催シンポジウム「ビックデータと環境アセスメント」オンライン方式、名古屋大学
- 9月4日 研究大会、特別集会「AIを用いたwebGISのエネルギー・環境評価システムの開発」オンライン方式、名古屋大学
- 12月4日 アジア環境アセスメント会議「（大会テーマは設定無し）」
（韓国主催でオンライン開催）
- 1月17日 サロン会「コロナ禍におけるアセスコミュニケーション」オンライン方式
- 2月10日 学会誌第20巻1号／大会報告・シンポジウム「ビックデータと環境アセスメント」／報告論文
／本の紹介／環境アセスメントの動向ほか



公開セミナーのコーディネーター
錦澤理事



研究大会公開シンポジウム
座長 林理事

○ 関連する社会の動き

【国内】

- 4月 地球温暖化対策推進本部「我が国の温室効果ガス削減目標」決定（2030年度において、温室効果ガスを2013年度から46%削減することを目指す。さらに、50%の高みに向け、挑戦を続けていく。）
- 6月 国・地方脱炭素実現会議「地域脱炭素ロードマップ～地方からはじまる、次の時代への移行戦略～」決定
- 6月 環境省・経済産業省「太陽電池発電所に係る環境影響評価の合理化に関するガイドライン ～開発済みの土地における環境影響評価の項目の選定の考え方～」
- 9月 経済産業省・環境省「太陽電池発電所・風力発電所に係る環境影響評価法及び電気事業法に基づく環境影響評価における事業の一連性の考え方について」
- 10月 「第6次エネルギー基本計画」閣議決定
- 10月 「地球温暖化対策計画」、「気候変動適応計画」及び「パリ協定に基づく成長戦略としての長期計画」閣議決定

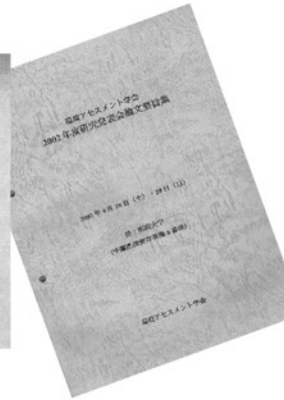
【国際】

- 5月 IAIA21 大会テーマ「困難な時代におけるインパクトアセスメントのスマート化」開催(オンライン)
- 8月 IPCC第6次評価報告書（第1作業部会報告書）公表
- 10月 生物多様性条約第15回締約国会議第一部開催（中国+オンライン）
- 10月 気候変動枠組条約第26回締約国会議（COP26）開催（英国・グラスゴー）

【2002年】



研究会シンポジウムの島津会長
(明海大学)



【2003年】



研究会の発表 (東京工業大学)

【2003年】



研究会でコーディネートする 倉阪理事
(東京工業大学)

【2003年】



第1回日韓EIAワークショップ(東京)

【2004年】



大会シンポジウムⅠパネルディスカッション
でコーディネート 桜井理事 (沖縄大学)

【2004年】



大会シンポジウムⅡパネルディスカッション
でコーディネート 石川副会長 (沖縄大学)

【2004年】



第2回日韓EIAワークショップ (韓国)

【2005年】



IAIAボストン大会
基調講演者とFuggle会長 (右端)

【2006年】



研究大会のパネルディスカッション（東京工業大学）

【2006年】



第1回奨励賞授賞式（2006年度総会にて）
左から伴会員、浅野会長、白井会員

【2006年】



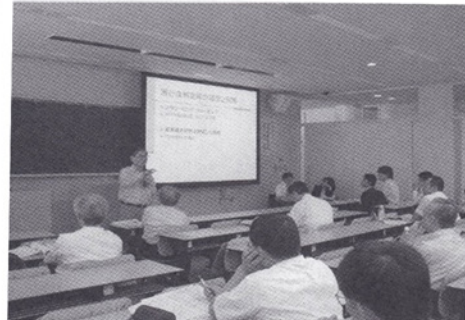
研究大会のポスターセッションの様子
（武蔵工業大学）

【2007年】



2007年度奨励賞の表彰式（2008年総会にて）
林 希一郎会員（左）、鹿島会長（右）

【2007年】



研究大会のシンポジウムで基調講演
浅野会長（明治大学）

【2008年】



公開セミナーのパネルディスカッション
（中央大学）

【2008年】



2008年度奨励賞の表彰式（2009年総会にて）
佐藤会員（左）、鹿島会長（中）、持木会員（右）

【2008年】



日韓ワークショップでの鹿島会長の挨拶（韓国）

【2008年】



IAIAバース大会で会長就任の挨拶 原科副会長

【2009年】



公開セミナーのパネルディスカッション
（東京都市大学）

【2009年】



公開セミナーの会場参加者
（東京都市大学）

【2009年】



2009年度奨励賞の表彰式（2010年総会にて）
左から市川委員長、朝賀会員、真田会員、鹿島会長

【2009年】



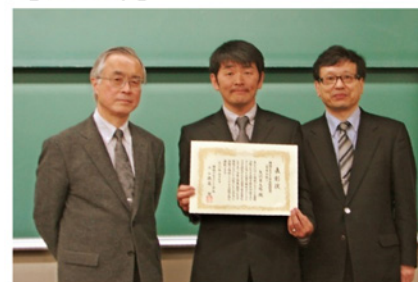
研究大会 シンポジウム
（明治大学）

【2010年】



公開セミナーのパネルディスカッション
（名古屋大学）

【2010年】



2010年度奨励賞の表彰式（2011年総会にて）
左から鹿島会長、矢代幸太郎会員、市川委員長

【2010年】



研究大会シンポジウムのパネルディスカッション
(名古屋大学)

【2010年】



研究大会のポスター発表で優秀賞を受賞した
千住緑会員 (名古屋大学)

【2011年】



議長・鹿島会長の総会運営
(中央大学)

【2011年】



功労賞受賞者 左より島津、清水、猿田各名誉会員
(研究大会懇親会、東京工業大学)

【2011年】



研究大会の学会10周年記念シンポジウム
(東京工業大学)

【2011年】



研究大会のポスターセッション風景
(東京工業大学)

【2012年】



公開セミナーのパネルディスカッション
(福岡大学)

【2012年】



2012年度奨励賞の表彰式 (2013年総会にて)
細川 岳洋会員 (左)、柳会長 (右)



【2012年】



研究大会のミティゲーション・エクスカージョンで九州大学新キャンパス（福岡大学）

【2012年】



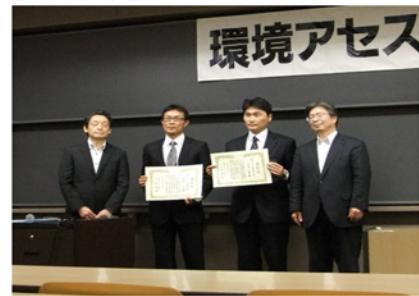
研究大会後の懇親会で挨拶する浅野直人大会実行委員長（福岡大学）

【2013年】



公開セミナーのパネルディスカッション（明治大学）

【2013年】



2013年度奨励賞の表彰式（2014年総会にて）
右より梶谷選考委員長、長谷川会員、松島会員、柳会長

【2013年】



ポスター発表の優秀賞受賞を受賞したアンピカダカル会員（中央）（明治大学）

【2013年】



2013年第3回日韓中EIAワークショップ（千葉）

【2014年】



2014年度奨励賞の表彰式（2015年総会にて）
右より柳会長、新井会員、伊東会員、市川選考

【2014年】



研究大会の大会実行委員会主催シンポジウム（千葉大学）

【2014年】



研究大会の企画委員会主催シンポジウム
(千葉大学)

【2014年】



環境ISO学生委員会の案内で行われた研究大会工
クスカーション (千葉大学)

【2014年】



公開セミナーのパネルディスカッション
(明治大学)

【2014年】



2015年度奨励賞の表彰式 (2016年総会に
て)
右より柳会長、中田会員、恩地会員、市川選
考委員長

【2015年】



研究大会特別講演での質疑状況
(龍谷大学)

【2015年】



研究大会 ポスター発表の優秀賞
柳会長 (右)、東郷会員 (左)

【2015年】



初めて首都圏以外で開催された総会
(名古屋学院大学)

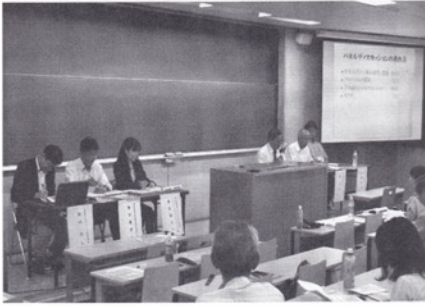
【2015年】



2016年度奨励賞の表彰式 (2017年総会にて)
右より田中充会長、田中亨会員、梶谷選考委員



【2016年】



研究大会大会シンポジウム
(中央大学)

【2016年】



名古屋で開催されたIAIA16開会

【2017年】



公開セミナーのパネルディスカッション

【2017年】



2017年度奨励賞の表彰式 (2018年総会にて)
田中充会長 (右)、錦澤 滋雄委員 (左)

【2017年】



研究大会シンポジウム
(山梨県立大学)

【2017年】



研究大会懇親会における NPO富士川・未来の
ケータリングサービスとNPOスペースふうの
リユース容器を使用した。(山梨県立大学)

【2018年】



公開シンポジウムのパネルディスカッション
(中央大学)

【2018年】



2018年度奨励賞の表彰式 (2019年総会にて)
右側：田中充会長と吉田毅郎会員
左側：藤井清香会員と田中充会長

【2018年】



研究大会エクスカーションで豊洲市場視察
(法政大学)

【2018年】



AIC2018のパネルディスカッション
(静岡県立大学)

【2019年】



公開シンポジウムのパネルディスカッション
(法政大学)

【2019年】



研究大会エクスカーションで大阪万博予定地を見学
(大阪市立大学)



【2020年】



研究大会シンポジウム（オンライン）のコーディネーター村山副会長(左)とパネリスト堀上氏(右)

【2020年】



2019年度奨励賞の表彰式（2020年総会にて）
藤田 八幡会長と石塚隆記会員

【2021年】



研究大会オンライン公開シンポジウムの座長
林理事（名古屋大学）

【2021年】



研究大会の本部の様子
(オンラインで実施)

【2022年5月21日 学会創立20周年記念式典】



藤田会長式辞（中央）と司会の村山副会長（右）



祝辞 環境省 和田篤也様



祝辞 埼玉県 目良聡様



祝辞 日本環境アミト協会
梶谷修様



祝辞 法政大学 廣瀬克哉様



感謝状贈呈を受けた賛助会員



功労者表彰の
柳憲一郎第四代会長と
藤田八暉現会長



記念事業報告 田中充委員長



記念講演 浅野直人様



記念講演 高村ゆかり様

主な学会活動の紹介

○ 環境アセスメント書籍の発刊

『環境アセスメント学入門 —環境アセスメントを活かそう—』

環境アセスメント学会／編、B5版、
2019、恒星社厚生閣
(特徴)

- ・持続可能な社会をつくるために不可欠な環境アセスメントのイロハをコンパクトにまとめた環境アセスメント必須の入門書
- ・実際の例を取りあげ、具体的にアセスメントの進め方を解説
- ・スモールアセス、SDGs など今後の環境アセスメントの重要なポイントを解説
- ・実務での参考書として、また学校での教科書として使用できるよう工夫

【目次】

はじめに

第1部 環境アセスメントを知る

- 第1章 環境アセスメントの心得
- 第2章 環境アセスメント図書はどのように作られているのか

第2部 環境アセスメントの制度

- 第3章 国の制度／環境影響評価法の概要
- 第4章 地方公共団体の制度の概要
- 第5章 諸外国の制度の概要

第3部 環境アセスメントを支える仕組み

- 第6章 環境アセスメントの技術指針
- 第7章 追跡調査
- 第8章 情報交流
- 第9章 審査会

第4部 ケーススタディ

- 第10章 藤前干潟
- 第11章 愛・地球博
- 第12章 都心部開発事例

第5部 環境アセスメントの新たな展開

- 第13章 スモールアセスの勧め
- 第14章 持続可能な社会の実現に向けて (SDGs への貢献)
 - (1) SDGs の達成と環境アセスメントの活用
 - (2) 政策や事業計画の立案検討段階における戦略的環境アセスメント
 - (3) 気候変動対策と環境アセスメント
 - (4) 環境に関わる情報基盤の強化、情報共有の推進
 - (5) これからの技術手法
 - (6) 国際展開



『環境アセスメント学の基礎』

環境アセスメント学会／編、B5版、
2013、恒星社厚生閣

(特徴)

- ・環境アセスメントの今日の学術的、
実務的知見を集大成し、環境アセ
スメントの専門技術者をめざす方たち
に利用いただける標準的なテキスト
- ・これから環境アセスメントを学ぼう
とする初学者や学生、さらには新たに
この分野の行政実務等にあたること
となった方々を念頭にとりまとめた
- ・大学、大学院における講義テキスト
として活用できるように構成されて
いる。
- ・文系、理系、文理融合系のいずれの分野
で行われる講義でも一つの方向性を持
って講義に利用できるように構成

【目次】

第1章 環境アセスメントとは何か

第2章 持続可能性に挑戦する環境ア
セスメント

第3章 環境科学の基礎に立つ環境ア
セスメント技術・手法

第4章 環境アセスメントの実際

第5章 制度としての環境アセスメン
ト

第6章 わが国の国際協力における環
境アセスメント

第7章 人材育成と実践

資料[環境アセスメント学会について]



○ 環境アセスメント小冊子の発行

本冊子は学会が編集している。内容は学会ホームページからダウンロードが可能である。

『環境アセスメントを活かそう 「環境アセスメントの心得」』

第1版：2008年6月発行
第2版（改定版）：2014年8月発行

1. 環境アセスメントの機能
2. 環境アセスメントの仕組み
3. 環境アセスメントの設計
4. 環境アセスメント実施のポイント
 - (1) 調査
 - (2) 予測
 - (3) 評価
 - (4) 環境保全対策
 - (5) 追跡調査
 - (6) 情報交流
 - (7) 審査
5. 環境アセスメントを活かすために

- 参考1. 国の制度
参考2. 地方の制度
参考3. 諸外国の取り組み
参考4. 環境アセスメント小冊子一覧



『環境アセスメント審査会ってなあに？「環境アセスメント審査会のあり方」』

第1版：2011年1月発行

1. 環境アセスメント審査会の役割と位置づけ
2. 審査会の委員
 - (1) 委員構成
 - (2) 委員に求められること
 - (3) 選任方法
 - (4) 任期
3. 運営方法
 - (1) 開催時期・頻度
 - (2) 審議内容
 - (3) 関係者の役割
 - (4) アセスメント図書の審査方法
4. 審査会の公開と広報
5. 今後のあり方

- 参考1. 東京都の場合
参考2. 埼玉県の場合
参考3. 山梨県の場合
参考4. 川崎市の場合



『環境アセスメントにおける調査
ってな～に？「調査の在り方～事
後調査を中心に～」』

第 1 版：2012 年 3 月発行

1. 事後調査の意義と目的
2. 事後調査の進め方
3. 事後調査計画書
 - (1) 位置づけ・構成
 - (2) 調査時期・地点・頻度
4. 事後調査の実施・分析・評価
 - (1) 事後調査の実施
 - (2) 調査結果の分析・評価
5. 追加的環境保全措置の検討・実施
6. 事後調査報告書
7. 事後調査にかかわる多様な人たち
8. 今後のあり方



『スモールアセスの勧め「自主アセ
ス・ミニアセスなどを中心に」』

第 1 版：2013 年 5 月発行

1. スモールアセスの意義
2. スモールアセスの設計
 - (1) 設計の基本的な考え方
 - (2) 実施手順
 - (3) 評価項目の絞り込み
 - (4) 調査・予測及び評価の手法

- (5) 外部との情報交換・公表の仕方
- (6) 公表文書の作成

3. スモールアセスの実施
4. 期間・費用
5. スモールアセスの展開に向けた課題



『適切な環境配慮を組み込むために
「環境アセスメントにおける情報
交流の基本」』

第 1 版：2014 年 7 月発行

1. 情報交流の意義とポイント
2. 環境アセスメントの各段階にお
ける情報交流
 - (1) 事業の計画段階
 - (2) 環境アセスメントの設計段階
 - (3) 環境アセスメントの実施段階
 - (4) 事業の実施・供用段階
3. 情報交流に関わる人々
 - (1) 事業者
 - (2) 行政
 - (3) 専門家・学識者
 - (4) 実務者
 - (5) 市民・NGO
 - (6) 情報交流に関わる人々の相互関係

4. 情報交流の場
 - (1) 様々な機会
 - (2) より積極的な機会の創出
5. 情報交流に係る課題



4. 技術指針を活かすために
 - 参考1. 国の技術指針（基本的事項、主務省令）
 - 参考2. 地方公共団体の技術指針



『環境アセスメントの技術指針ってな～に？「技術指針のかしこい使い方」』

第1版：2016年2月発行

1. 技術指針の役割（機能）
2. 技術指針に示されている内容（概要）
3. 技術指針の内容と使い方のポイント
 - (1) 事業特性・地域特性の把握
 - (2) 項目の選定
 - (3) 調査・予測・環境保全対策（生活環境系）
 - (4) 調査・予測・環境保全対策（自然環境系）
 - (5) 評価
 - (6) 追跡調査
 - (7) 図書の作成
 - (8) 情報交流

『環境アセスメント図書を読み解く「準備書はどのように作られているの？」』

第1版：2017年8月発行

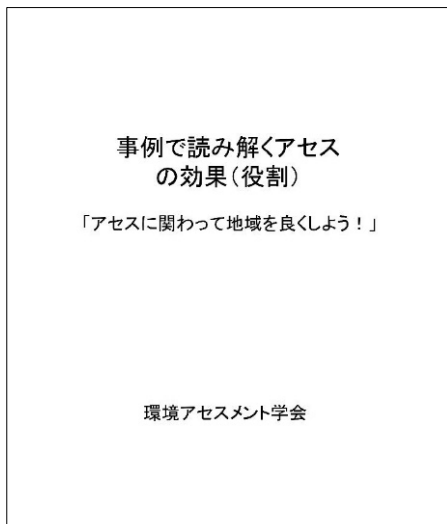
1. 準備書はどのように作られているのか
2. 環境に影響を与える主な行為には何があるのか（影響要因）
 - (1) 排気ガス
 - (2) 音
 - (3) 排水
 - (4) 風
 - (5) 土地改変
 - (6) 景観
3. 事業特性と地域特性を踏まえた環境影響評価項目の選定
 - (1) 事業特性と地域特性を踏まえた環境影響評価項目の選定
 - (2) ケーススタディ



『事例で読み解くアセスの効果（役割）「アセスに関わって地域を良くしよう！」』

第1版：2020年3月発行

1. 藤前干潟
2. 愛・地球博
3. 都心部開発事例
4. 調査、予測、評価に取り組む姿勢
5. ステークホルダーとの交流が生み出すコミュニケーション
6. 環境アセスメントが機能し、効果的な意思決定につながるための体制



7. 地域や社会の持続可能性に果たす役割
8. アセスに関わって地域を良くしよう！

『先手先手の環境配慮が肝心「配慮書を活用しよう」』

第1版：2021年9月発行

1. 配慮書の機能と手続
2. 手法と技術
 - (1) 複数案の設定
 - (2) 調査予測評価の範囲（項目の選定含む）
 - (3) 調査予測評価の方法
3. 事例で見られた役割
 - (1) 道路
 - (2) 公有水面埋立
 - (3) 火力発電所
 - (4) 風力発電所・太陽電池発電所
4. 今後の方向性

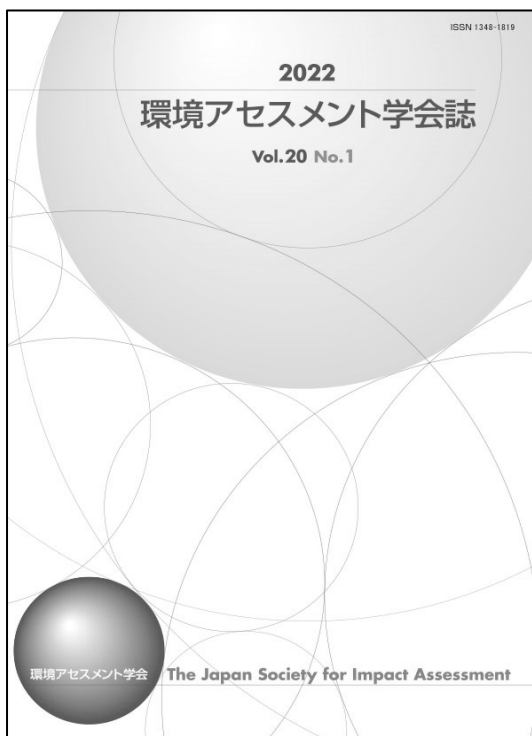


○ 環境アセスメント学会誌の発行

学会誌は2月、8月の年2回発行している。各号の特集テーマ等は次の通りである。

- | | |
|---|--|
| 1巻1号 (2003年) | 8巻2号 (2010年)
特集「環境アセスメントの歴史に学ぶ」 |
| 1巻2号 (2003年)
特集「環境アセスメントにおける生態系の評価」 | 9巻1号 (2011年)
シンポジウム報告「生物多様性保全における環境アセスメントの役割」 |
| 2巻1号 (2004年)
特集「GIS と環境アセスメント／2003年度研究発表会報告」 | 9巻2号 (2011年)
特集「スモールアセス・簡易アセスの動向」
小特集「東日本大震災・原発事故とアセスメント」 |
| 2巻2号 (2004年)
特集「国際協力と環境アセスメント」 | 10巻1号 (2012年)
シンポジウム報告「エネルギー政策選択に向けた戦略的環境アセスメント」
シンポジウム報告「アセス法のこれまでとこれから」 |
| 3巻1号 (2005年) | 10巻2号 (2012年)
特集「地熱発電と環境アセスメント」
セミナー報告「コミュニケーションについて」 |
| 3巻2号 (2005年) | 11巻1号 (2013年)
シンポジウム報告「アセス法改正による地方自治体条例の動向」
シンポジウム報告「環境アセスメントにおける生物多様性分野の定量評価とミティゲーション・ヒエラルキー」 |
| 4巻1号 (2006年) | 11巻2号 (2013年)
特集「風力発電と環境アセスメント」 |
| 4巻2号 (2006年) | 12巻1号 (2014年)
シンポジウム報告「スモールアセス～自主アセス・ミニアセスの動向」
シンポジウム報告「環境アセスメントの新展開～配慮書手続の運用の課題と期待」 |
| 5巻1号 (2007年) | 12巻2号 (2014年)
セミナー報告「環境影響評価における海洋生態系調査の現状と技術開発」
特集「復興アセス」 |
| 5巻2号 (2007年)
特集「戦略的環境アセスメントの制度と実態」 | |
| 6巻1号 (2008年)
シンポジウム報告「環境影響評価法運用の10年」 | |
| 6巻2号 (2008年)
特集「環境アセスメントと合意形成」 | |
| 7巻1号 (2009年)
特集「干潟生態系の環境影響評価技術」 | |
| 7巻2号 (2009年)
特集「生物多様性条約 COP10 と環境アセスメントの動向」 | |
| 8巻1号 (2010年)
シンポジウム報告「アセス法改正 総合研究会報告書について」 | |

- 13 巻 1 号 (2015 年)
シンポジウム報告「化石エネルギーの有効活用と環境アセスメントとの関わり」
シンポジウム報告「再生可能エネルギーと環境アセスメント」
- 13 巻 2 号 (2015 年)
セミナー報告「環境影響評価に関する技術手法の最新動向 (I)」
特集「環境社会配慮」
- 14 巻 1 号 (2016 年)
シンポジウム報告「わが国の環境アセスメントと国際社会」
特別集会報告「地熱発電所など冷却塔排気の環境アセスメント技術」
特別集会報告「野生生物と交通」
特別集会報告「環境アセスメント関連書の公開と管理」
- 14 巻 2 号 (2016 年)
セミナー報告「環境社会配慮とアセスメント」
特集「フォローアップ」
- 15 巻 1 号 (2017 年)
シンポジウム報告「環境影響評価に関する技術手法の最新動向(II)」
特別集会報告「環境関連データのオープンデータベースの動向と課題」
特別集会報告「21 世紀の環境政策と環境アセスメント」
- 15 巻 2 号 (2017 年)
セミナー報告「陸上風力発電アセスメントの現状と課題」
特集「環境アセスメント法制定 20 周年」
- 16 巻 1 号 (2018 年)
シンポジウム報告「太陽光発電の普及と環境アセスメント」
特別集会報告「グリーン・リージョンと生物多様性オフセット・バンキング」
特別集会報告「富士山の保全管理と景観配慮の取組」
- 16 巻 2 号 (2018 年)
セミナー報告「環境アセスメントとグリーンインフラ」
特集「CCS と環境アセスメント」
- 17 巻 1 号 (2019 年)
シンポジウム報告「環境アセスメントが活用されるための人・基盤づくり」
特別集会報告「環境アセスメント資料のアーカイブ化に向けて」
- 17 巻 2 号 (2019 年)
セミナー報告「過去の環境アセスメントに学ぶ」
特集「環境影響審査会の役割と課題」
- 18 巻 1 号 (2020 年)
シンポジウム報告「湾岸未来都市のあるべき環境像を模索する」
- 18 巻 2 号 (2020 年)
特集「これからの調査・予測技術」
- 19 巻 1 号 (2021 年)
シンポジウム報告「洋上風力発電と環境アセスメント」
特別集会報告「JICA 環境社会配慮ガイドラインー10 年の歩みと改訂へ向けて」
- 19 巻 2 号 (2021 年)
特集「環境社会配慮の現状」
- 20 巻 1 号 (2022 年)
シンポジウム報告「ビッグデータと環境アセスメント」
- 20 巻 2 号 (2022 年)
報告「環境アセスメント学会創立 20 周年記念式典」
特集「環境アセスメントのこれまでと今後の展望」



学会誌の表紙(22 巻 1 号、2022 年 2 月発行)

○ 部会等の活動

1. 制度研究部会

2003 年度

第 1 回定例会「環境アセスメント制度の動向について」

2004 年度

第 2 回定例会「国及び地方自治体における最近の SEA の動向～計画策定段階における適用事例研究～」

第 3 回定例会「海外における最近の SEA の動向及び事例」

第 4 回定例会「環境影響評価の基本的事項に関する技術検討委員会報告」

2005 年度

第 5 回定例会「埼玉県における戦略的環境アセスメントの取組について」

第 6 回定例会「景観法の概要と施行状況について」

2006 年度

第 7 回定例会「河川事業の計画段階における環境影響の分析方法の考え方」の試行について」

第 8 回定例会「我が国における P I (パブリック・インボルブメント) の実状と課題」

2007 年度

第 9 回定例会「戦略的環境アセスメント総合研究会報告 (SEA 導入ガイドライン) について」

第 10 回定例会「農業農村整備における環境対策の現状と課題について」

第 11 回定例会「アセス法制度の課題と改善点」

第 12 回定例会「生活環境分野におけるアセスメントの技術的支援のあり方」

第 13 回定例会「生物多様性分野におけるアセスメントの技術的支援のあり方」

第 14 回定例会「環境アセスメントの
あるべき制度論」

2008 年度

第 15 回定例会「地球温暖化予測の不
確実性をどう考えるか」

第 16 回定例会「土地区画整理事業の
計画決定の処分性を認めた最高裁判決
(平成 20 年 9 月 10 日) について」

2009 年度

第 17 回定例会「地球温暖化『日本へ
の影響』-長期的な気候安定化レベル
と影響リスク評価-」

2010 年度

第 18 回定例会「CBD/COP10 報告」

2011 年度

第 19 回定例会「再生可能エネルギー
と環境アセスメント」

2012 年度

第 20 回定例会「再生可能エネルギー
とアセス制度」

第 21 回定例会「海外の風力発電に係
る環境影響評価」「風力発電事業者の
視点での環境影響評価」

2014 年度

第 22 回定例会「2020 東京オリンピッ
クと環境アセスメント」

2015 年度

第 23 回定例会「アセス法施行令の軽
微変更について」

2016 年度

第 24 回定例会「条例における動向に
ついて」

第 25 回定例会「環境アセスメントと
グリーンインフラ」

2017 年度

第 26 回定例会「洋上風力発電の取り
扱いについて」

第 27 回定例会「環境アセスメントと
グリーンインフラ」

第 28 回定例会「環境アセスメントと
グリーンインフラ 2」

2018 年度

第 29 回定例会「ポジティブ・アセス
について」

第 30 回定例会「東京都環境影響評価
制度の見直し-中間まとめについて」

第 31 回定例会「太陽光発電施設等に
係る環境影響評価の基本的考え方に関
する検討会報告書(案)について」

2019 年度

第 32 回定例会「環境影響評価法の今後
の改正案のあり方と方向性を考える
(1)」

第 33 回定例会「環境影響評価法の今後
の改正案のあり方と方向性を考える
(2)」

2020 年度

第 34 回定例会「IAIA 文書を読み解く
(その 1) 持続可能性・戦略アセス」

第 35 回定例会「IAIA 文書を読み解く
(その 2) 累積的影響、波及影響の評
価」

2021 年度

第 36 回定例会「環境影響評価法と再
生可能エネルギーの促進(風力発電所
規模要件、改正温暖化対策法など)」

2. 生態系研究部会

2003 年度

- 第 1 回定例会「ヤマトシジミの HSI モデル構築と生息環境の評価」
- 第 2 回定例会「生態系の定量的評価手法への期待と課題」
- 第 3 回定例会「川の自然再生の取り組みについて」

2004 年度

- 第 4 回定例会「海外の定量的生態系評価の現状と傾向」
- 第 5 回定例会「オオタカの生態と生息環境-現地調査の知見も含めて-

2005 年度

- 第 6 回定例会「野生動物の生息地評価－欧州における事例と GIS の適用について－」
- 第 7 回定例会「浅海域における生態系定量評価に向けた試み」

2006 年度

- 第 8 回定例会「横浜市の環境アセスメント・・・開発行為を伴う事業の事例から」
- 第 9 回定例会「環境アセスメントにおける土壌インベントリーの新たな位置づけ」

2007 年度

- 第 10 回定例会「地球温暖化対策の枠組みにおける森林」

2008 年度

- 第 11 回定例会「生物多様性基本法の成立とこれからの環境アセスメント」
- 第 12 回定例会「生態系評価と水質評価の融合－三河湾の事例より－」

2009 年度

- 第 13 回定例会「生物多様性条約締約

国会議 C O P 1 0 に向けての生物多様性総合評価」

- 第 14 回定例会「ダム撤去における球磨川荒瀬ダムの位置づけ－荒瀬ダム撤去における H E P 調査の可能性－」
- 第 15 回定例会「生物多様性オフセットとは？ CBD/COP10 を前にその国際動向を学ぶ」

2010 年度

- 第 16 回定例会「生物多様性オフセット・バンキングの日本における展望」
- 第 17 回定例会「生物多様性ノーネットロス政策の日本への導入の課題」
- 第 18 回定例会「生物多様性保全型都市づくりを支える環境情報システム G A I A ～逗子市の環境アセスメント制度から～」
- 第 19 回定例会「戦略的環境アセスメントと生物多様性オフセットのあり方」

2011 年度

- 第 20 回定例会「人間社会のベクトルと日本の環境アセスメントの構造と機能の検証」

2013 年度

- 第 21 回定例会「生物多様性の保全に関する国際動向について」
- 第 22 回定例会「環境アセスメントにおける生物多様性分野の計画段階配慮書技術ガイド」
- 第 23 回定例会「施工会社の携わる環境保全措置事例」
- 第 24 回定例会「SEA における生物多様性地域戦略活用の展望」

2014 年度

- 第 25 回定例会「里山生態系保全を推進する“里山バンキング”」

- 第 26 回定例会「都市における水辺の生態系再生」
- 第 27 回定例会「IAIA の生物多様性アセスメントの理想と途上国支援での生態系アセスメントの現実」

2015 年度

- 第 28 回定例会「北陸新幹線・中池見湿地における環境影響評価手続と計画ルートについて」

2016 年度

- 第 29 回定例会「日本への生物多様性オフセット導入に向けた生態系の定量的評価について」
- 第 30 回定例会「韓国のエコロジカル・ネットワーク形成における評価手法について」

2017 年度

- 第 31 回定例会「環境影響評価における生物多様性保全に関する参考事例集」について」
- 第 32 回定例会「生物多様性民間参画ガイドライン（第 2 版）と国内の生物多様性オフセット事例」

2018 年度

- 第 33 回定例会「ブリジストンの環境の取り組み～生物多様性ノーネットロスに向けて～」

2019 年度

- 第 34 回定例会「地域社会特性と生態系サービスを考慮したサンゴのオフセット～バヌアツ共和国の港湾開発事業の事例～」

2020 年度

- 第 35 回定例会「赤道原則と邦銀による投融資 ～環境アセスメントと生物多様性オフセットに焦点をあてて～」

2021 年度

- 第 36 回定例会「フクロウの HSI モデルとその適用」

3. 公開セミナー

2003 年度

- 第 1 回セミナー「住民参加による政策形成は可能か－三番瀬円卓会議を例にして」

2004 年度

- 第 2 回セミナー「水域生態系機能の定量的評価について－生態系の評価法、水域編」

2005 年度

- 第 3 回セミナー「どう変わる？環境アセスメント技術の最前線」

2006 年度

- 第 4 回セミナー「地方のアセスメントから学ぶ」

2007 年度

- 第 5 回セミナー「地域環境情報とコミュニケーション」

2008 年度

- 第 6 回セミナー「廃棄物処理における環境アセスメントの果たす役割と課題」

2009 年度

- 第 7 回セミナー「アセス審査会のあり方について」

2010 年度

- 第 8 回セミナー「事後調査の現状と課題－今後のあり方について－」

2011 年度

- 第 9 回セミナー「スモールアセス－現状と課題について」
- 講演 1：「川崎市における自主アセスについて」

講演 2 : 「世田谷区における環境配慮制度について」

講演 3 : 「(社)日本環境アセスメント協会の自主アセスに対する取り組み」

2012 年度

第 10 回セミナー「コミュニケーションについて」

講演 1 : 「東京都環境影響評価手続における住民意見の取り扱いについて」

講演 2 : 「J E A S におけるコミュニケーションの検討」

講演 3 : 「環境影響評価制度におけるコミュニケーション促進の手段」

講演 4 : 「事業者の視点から見たコミュニケーション」

2013 年度

第 11 回セミナー「風力発電施設に係る環境影響評価の現状と課題—今後の方向性について—」

講演 1 : 「風力発電の法アセス対象追加と環境省の取組」

講演 2 : 「動植物生態系の環境影響」

講演 3 : 「騒音・超低周波音の環境影響評価」

講演 4 : 「海外事情から見える課題」

講演 5 : 「海外発電事業の現状—環境影響評価法対象事業となつて—」

2014 年度

第 12 回セミナー「海域生態系の環境影響評価における現状と技術開発」

講演 1 : 「沿岸海域生態系について」

講演 2 : 「海面埋立等における海域生態系調査の現状」

講演 3 : 「洋上風力発電と海域影響調査」

講演 4 : 「海域生態系影響予測の技術開発」

2015 年度

第 13 回セミナー「環境影響評価に関する技術手法の最新動向 (I)」

講演 1 : 「環境影響評価に係る技術について」

講演 2 : 「環境アセスメントの技術 (生活環境分野) の動向について」

講演 3 : 「道路交通騒音モデルの変遷」

講演 4 : 「風力発電に係る騒音・低周波音の予測技術」

2016 年度

第 14 回セミナー「環境社会配慮とアセスメント」

講演 1 : 「社会配慮と CSR」

講演 2 : 「ISO26000 社会的責任規格の意義と可能性」

講演 3 : 「社会・環境価値の創出(CSV)を目指す CSR: 包括的アプローチとしての自然資本」

2017 年度

第 15 回セミナー「陸上風力発電アセスメントの現状と課題」

講演 1 : 「風力発電に係る取組と環境アセスメント」

講演 2 : 「風力発電施設による社会影響・環境紛争の発生状況とその要因」

講演 3 : 「風力発電施設から発生する騒音等の評価手法」

2018 年度

第 16 回セミナー「環境アセスメントとグリーンインフラ」

講演 1 : 「グリーンインフラとは」

講演 2 : 「グリーンインフラの歴史と機能」

講演 3 : 「環境アセスメントへの応用」

講演 4 : 「環境アセスメント制度を巡る最近の動向」

2019 年度

第 17 回セミナー「過去の環境アセスメントに学ぶ」

講演 1：「藤前干潟」

講演 2：「愛・地球博」

講演 3：「都心部開発事例」

2021 年度

第 18 回セミナー「環境アセスメントの新たな展開」

講演 1：「スモールアセスの勧め」

講演 2：「戦略的環境アセスメント」

講演 3：「気候変動対策における環境アセスメントの役割」

講演 4：「2025 年日本国際博覧会における持続可能性～アセスメントの実施について」

4. 研究大会 シンポジウム等

2007 年度

シンポジウム「環境影響評価法運用の 10 年」

2008 年度

シンポジウム「環境影響評価法の見直しに向けて－不確実性の取り扱いを中心に－」

2009 年度

公開シンポジウム「アセス法改正 総合研究会報告書を取りまとめて」

トレーニングワークショップ「EIA 審査の国際基準－UNEP トレーニングキットより」

2010 年度

公開シンポジウム「生物多様性保全における環境アセスメントの役割」

2011 年度

学会 10 周年記念シンポジウム「アセ

ス法のこれまでと、これから」

一般公開シンポジウム「エネルギー政策選択に向けた戦略的環境アセスメント」

ワークショップ「10 周年記念出版ワークショップ」

ワークショップ「環境アセスメント関連図書の管理」

2012 年度

企画委員会開催シンポジウム「アセス法改正による地方自治体条例の動向」

一般シンポジウム「環境アセスメントにおける生物多様性分野の定量評価とミティゲーション・ヒエラルキー」

エクスカージョン：九州大学伊都キャンパス

2013 年度

シンポジウム 1 「スモールアセス～自主アセス・ミニアセスの動向～」

シンポジウム 2 「環境アセスメントの新たな展開～配慮書手続の運用の課題と期待」

エクスカージョン：都市型ビオトープ、省エネ及び震災関連技術

2014 年度

企画委員会主催シンポジウム「化石エネルギーの有効活用と環境アセスメントとの関わり」

大会実行委員会主催シンポジウム「再生可能エネルギーと環境アセスメント」

エクスカージョン：千葉大学西千葉キャンパス

2015 年度

企画委員会主催シンポジウム「わが国の環境アセスメントと国際社会」

特別集会 I 「地熱発電所など冷却塔排気環境アセスメント技術

特別集会 II 「野生生物と交通」の現状とその課題

特別集会Ⅲ「アセス電子図書の管理
エクスカージョン：龍谷の森見学ツアー

2016 年度

企画委員会主催シンポジウム「環境影
響評価に関する技術手法の最新動向
(Ⅱ)」

特別集会「環境関連データのオープン
データソースの動向と課題」

2017 年度

シンポジウム「太陽光発電の普及と環
境アセスメント」

特別集会「グリーン・リージョンと生
物多様性オフセットバンキング」

特別講演「富士山の保全管理 と景観配
慮の取り組み」

エクスカージョン：富士山世界遺産セ
ンター及び忍野八海等の見学

2018 年度

シンポジウム「環境アセスメントが活
用されるための人・基盤づくり」

特別集会「環境アセスメント資料のアー
カイブ化に向けて」

エクスカージョン：豊洲新市場の見学

2019 年度

シンポジウム「湾岸未来都市のあるべ
き環境像を模索する」

エクスカージョン：2025 大阪・関西
万博開催地・夢洲等の視察

2020 年度

シンポジウム「洋上風力発電と環境ア
セスメント」

エクスカージョン：(中止)

2021 年度

シンポジウム「ビッグデータと環境ア
セスメント」

エクスカージョン：(中止)

2022 年度

シンポジウム「環境影響評価の多様な
発展に向けて」

エクスカージョン：(中止)

5. サロン会

2004 年度

第 1 回サロン会「国際影響評価学会
(I A I A) 総会に関する報告」

第 2 回サロン会「 O D A と環境アセス
メント」

第 3 回サロン会「 J I C A 環境ガイドライ
ンについて」

2006 年度

第 4 回サロン会「環境影響評価法の一
部改正案を検討する」

第 5 回サロン会「環境アセスメント士
(社団法人日本環境アセスメント協会
認定資格) の育成を考える」

2007 年度

第 6 回サロン会「廃棄物処理を巡る最
近の動向」

第 7 回サロン会「廃棄物処理を巡る最
近の動向～自治体における取り組み」

第 1 回関西サロン会「戦略的環境アセ
スメントガイドラインについて」

2008 年度

第 1 回サロン会「東京都における環境影
響評価審査会の現状及び課題」

「埼玉県における環境影響評価審査会
の現状及び課題」

第 2 回サロン会「横浜市の環境影響評
価審査会の運用について」

「川崎市における環境影響評価審査会
の運用について」

2009 年度

- 第 1 回サロン会「神奈川県の記事調査の現状と課題」、「東京都の記事調査の現状と課題」
- 第 2 回サロン会「事後調査の現状と課題」
- 第 3 回サロン会「事後調査の現状と課題」

2010 年度

- 第 1 回サロン会「自主的環境影響評価について－JEAS 研究部会成果報告」
- 第 2 回サロン会「川崎市における自主アセスについて」
- 第 3 回サロン会「世田谷区における自主アセスについて」

2011 年度

- 第 1 回サロン会「川崎市環境影響評価手続における住民意見の取り扱いについて」
- 「JEAS におけるコミュニケーションの検討」
- 第 2 回サロン会「海外におけるコミュニケーションを中心として」
- 「情報公開と著作権の検討状況について」

2012 年度

- 第 1 回サロン会「再生可能エネルギーと環境アセスメント その 2・風力発電所」
- 第 2 回サロン会「海外の風力発電施設に係る環境影響の現状」「風力発電施設の事業」

2013 年度

- 第 1 回サロン会「海域生態系の特徴について」「法アセスにおける海域生態系の現状」

- 第 2 回サロン会「海域生態系予測の技術開発」

- 第 3 回サロン会「魚類と生息場を用いた生物多様性評価の試み」「海外の洋上風力発電環境影響評価の現状」

2014 年度

- 第 1 回サロン会「環境アセスメント技術・生活環境分野の動向について」
- 「道路交通騒音予測モデル（ASJ-RTN モデル）の変遷について」

2015 年度

- 第 1 回サロン会「環境社会配慮の意義と役割」「JICA 環境社会配慮ガイドラインの運用と課題」
- 「参加型と環境社会配慮 -環境社会配慮は“配慮”を超えるのか-」
- 第 2 回サロン会「環境社会配慮と CSR」
- 「ISO26000 社会的責任規格の意義と可能性」「社会・環境価値の創出 (CSV) を目指す CSR : 包括的アプローチとしての自然資本」

2016 年度

- 第 1 回サロン会「風力発電施設による社会影響・環境紛争の発生状況とその要因」
- 「風力発電施設から発生する騒音等の評価手法」

2017 年度

- 第 1 回サロン会「グリーンインフラとは」
- 第 2 回サロン会「グリーンインフラの歴史と機能、環境アセスへの応用」
- 第 3 回サロン会「グリーンインフラと環境アセスメント」

2018 年度

第 1 回サロン会「第 5 次環境基本計画
や至近の環境アセスメントの動向等に
ついて」

第 2 回サロン会「過去のアセスに学ぶ
～都市部開発事業に係るアセス」

第 3 回サロン会「過去のアセスに学ぶ
～藤前干潟、愛・地球博～」

2019 年度

第 1 回サロン会：中止

2020 年度

第 1 回サロン会「戦略的環境アセスメ
ント」「スモールアセスの勧め」

2021 年度

第 1 回サロン会「コロナ渦におけるコ
ミュニケーション」

6. 全国キャラバン講習会

第 1 回 全国キャラバン講習会

2010 年 1 月 29 日(金)、大阪府大阪市

・「環境アセスメントを活かそう＜環境
アセスメントの心得＞」

・「公共事業を中止するときなど今日的
な課題を含む環境影響評価の考え方」

第 2 回 全国キャラバン講習会

2011 年 7 月 15 日(金)、福岡県福岡市

・「環境アセスメント制度を巡る最近の
動向－改正環境影響評価法の要点及び
対応方向と風力発電施設に係る環境影
響評価」

・「改正環境影響評価法の概要と戦略的
環境アセスメントの事例紹介」

第 3 回 全国キャラバン講習会

2014 年 10 月 29 日(水)、宮城県仙台市

・「グリーンファイナンス事業による環
境配慮について」

・「学会作成小冊子「環境アセスメント
の心得」について」

第 4 回 全国キャラバン講習会

2015 年 11 月 5 日(木)、長野県長野市

・「長野県環境影響評価条例の改正につ
いて」

・「「環境アセスメントの世界」へ～環
境アセスメントの心得～」

・「スモールアセス・自主アセス事例の
紹介」

・「アセス終了後のフォローのあり方」

第 5 回 全国キャラバン講習会

2016 年 10 月 29 日(土)、静岡県静岡市

・学会案内

・講演 1「環境アセスメントの意義と最
近の動向」

・講演 2「小冊子“環境アセスメントの
心得”について」

・講演 3「生物多様性分野の最新動向」

・情報提供「静岡市環境影響評価制度に
ついて」

・意見交換（参加者全員）

第 6 回 全国キャラバン講習会

2017 年 11 月 2 日(木)、広島県広島市

・学会案内

・講演 1「環境アセスメントの意義と最
近の動向」

・講演 2「小冊子“環境アセスメントの
心得”について」

・講演 3「スモールアセスについて」

・情報提供「事例から考える環境管理セ
ンター：Big Front ひろしまができる
まで」

・意見交換（参加者全員）

第 7 回 全国キャラバン講習会

2018 年 11 月 24 日（土）、石川県金沢市

- ・ 学会案内
- ・ 講演 1 「環境アセスメントの意義と最近の動向」
- ・ 講演 2 「環境アセスメントの心得～持続可能な環境・社会に役立てる！」
- ・ 講演 3 「環境アセスメントとグリーンインフラ」
- ・ 講演 4 「石川県における環境アセスメントについて」
- ・ 石川県内アセス実施機関の紹介
- ・ 意見交換（参加者全員）

第 8 回 全国キャラバン講習会

2019 年 11 月 6 日（水）、北海道札幌市

- ・ 学会案内
- ・ 講演 1 「環境アセスメント学入門～持続可能な環境・社会に役立てる！」
- ・ 講演 2 「環境アセスメントの意義と最近の動向」
- ・ 講演 3 「北海道における環境アセスメントの課題」
- ・ 北海道内アセス実施機関の紹介
- ・ 意見交換（参加者全員）

環境アセスメント学会20年 の沿革と記念事業

環境アセスメント学会 創立20周年記念事業
特別委員会 委員長

田 中 充

1. 環境アセスメント学会の概要 (1)

■ 環境アセスメント学会の創立

- ・2002年4月 環境アセスメント学会の設立:中央大学後楽園キャンパスにて設立総会を開催、2022年で創立20周年を迎える
- ・初代会長:島津康男、2代目会長:浅野直人、3代目会長:鹿島茂、4代目会長:柳憲一郎、5代目会長:田中充、6代目(現)会長:藤田八暉(敬称略)



初代会長・島津康男氏、第1回研究
大会シンポジウムにて

■ 学会の目的

本学会は、環境アセスメントに関する内外の様々な分野の研究者及び実務者等が、相互に交流を行い、環境アセスメントに係る学術・技術等の発展と普及を図り、また環境アセスメントに関する国民各層共通の認識を醸成することにより、環境アセスメントの適正な実施を推進し、もって持続可能な社会の構築に寄与することを目的とする。環境アセスメントに関する理論と実践を統合的に研究する唯一の学術団体である。

1. 環境アセスメント学会の概要 (2)

■ 会員数 2022年4月1日現在

会員数403: 正会員338名、公益会員6団体、賛助会員28団体 等
 正会員約340名の内訳 大学関係:約80(24%)、会社・コンサル
 約190(57%)、国・自治体約20(6%)、財団・社団約35(11%) 等

■ 主な学会活動

研究者、コンサル・事業者、行政関係者、市民・NGOの多様な主体が参加し、調査研究や普及啓発など活発な学会活動を展開。

◇年次大会(研究発表会、毎年9月～10月頃に開催)

◇総会(毎年開催5月頃、役員改選は隔年)と公開セミナーの開催

◇委員会活動

- ・学術委員会 ・編集委員会 ・企画委員会
- ・行事委員会 ・情報委員会 ・表彰委員会
- ・国際交流委員会 など



2003年10月 第2回研究大会の発表
 (東京工業大学すずかけ台キャンパス)

1. 環境アセスメント学会の概要 (3)

■ 主な学会活動(続き)

◇シンポジウム・セミナー 適宜開催

◇研究部会 制度部会、生態系研究部会、若手研究会、環境社会配慮研究会 など

◇国際交流活動 IAIA(国際影響評価学会)、アジア環境アセスメント会議AIC(日本、韓国、中国等) など



2003年12月 第1回日韓EIAワークショップ
 ショップ(東京)



2018年8月 第12回AIC静岡大会 参加者
 (日本・静岡)

◇サロン会 会員同士の研究、意見交換の場として開催

◇出版物 学会誌(年2回)、研究発表大会要旨集など

書籍『環境アセスメント学の基礎』(2013年)、『環境アセスメント学入門』(2019年)、小冊子『環境アセスメントの心得』、『環境アセスメント図書を読み解く』ほか

2. 学会の活動のあゆみ (1)

◆学会 研究発表大会の開催

- 第1回 2002年9月 明海大学浦安キャンパス
- 第2回 2003年9-10月 東京工業大学すずかけ台キャンパス
- 第3回 2004年10月 沖縄大学
- 第4回 2005年9月 愛知学院大学日進キャンパス
- 第5回 2006年9月 武蔵工業大学横浜キャンパス
- 第6回 2007年9月 明治大学駿河台キャンパス
- 第7回 2008年9月 大阪市立大学杉本キャンパス
- 第8回 2009年9月 明治大学駿河台キャンパス
- 第9回 2010年9月 名古屋大学東山キャンパス
- 第10回 2011年9月 東京工業大学すずかけ台キャンパス
- 第11回 2012年9月 福岡大学七隈キャンパス
- 第12回 2013年9月 法政大学市ヶ谷キャンパス
- 第13回 2014年9月 千葉大学西千葉キャンパス
- 第14回 2015年9月 龍谷大学瀬田キャンパス
- 第15回 2016年9月 中央大学後楽園キャンパス
- 第16回 2017年9月 山梨県立大学飯田キャンパス
- 第17回 2018年9月 法政大学市ヶ谷キャンパス
- 第18回 2019年9月 大阪市立大学杉本キャンパス
- 第19回 2020年9月 桜美林大学 (オンライン開催)
- 第20回 2021年9月 名古屋大学 (オンライン開催)



第9回研究大会パネルパネルディスカッション(名古屋大学)



第14回研究大会エクスカーション(千葉大学キャンパス 環境ISO取組)

2. 学会の活動のあゆみ (2)

◆経年でみる学会活動の動き(1)

主な年	主な活動・動き	備考
2002年	準備委員会(委員長 猿田勝美氏)の呼びかけにより設立総会が会員110名出席のもとに開催された。会長選挙を実施し、島津康男名古屋大学名誉教授が初代会長に選任された。その後、第2回総会、研究大会、公開セミナーが開催された。	設立総会:中央大学後楽園キャンパス
2003年	学会では、制度部会、生態系研究部会が設置され、活動が始まった。計画段階アセス制度について関心が高まり、制度部会を中心に検討が行われた。	EUでは、指令に基づくSEAの導入が進む
2005年	愛知万博の開催中の2005年9月に、愛知学院大学にて研究大会を開催し、藤前干潟埋立や中部空港建設、愛知万博等の環境アセスメント事例について議論が行われた。	
2007年	1997年アセス法制定から10年の経過を踏まえ、研究大会で「アセス法運用の10年」のシンポジウムを開催、法制度の課題等、計画段階アセス・SEAに係る講演会が実施された。国では、戦略的環境アセスメント導入ガイドラインを公表した。	研究大会:明治大学駿河台キャンパス
2009年	研究大会ではIAIAのTRAINING MANUALを利用したワークショップが開催されるとともに、大幅な法改正に係るアセス法改正総合研究会報告書について議論が行われた。	研究大会:明治大学駿河台キャンパス

2. 学会の活動のあゆみ (2)



◆経年でみる学会活動の動き(2)

主な年	主な活動・動き	備考
2011年	2011年3月11日東日本大震災により地震、津波、原子力発電所事故による大災害が発生。環境影響評価法が改正され、配慮書・報告書手続の新設、対象事業に風力発電を追加等が行われた。研究大会では学会10周年記念シンポジウム「アセス法のこれまでと、これから」を開催した。	東京工業大学 すずかけ台キャンパス
2012年	研究大会では「生物多様性分野の定量評価とミティゲーション・ヒエラルキー」「アセス法改正による自治体条例の動向」と題するシンポジウムを開催、学会誌では地熱発電に関する特集を組み、書籍「環境アセスメント学の基礎」を発行した。	研究大会:福岡 大学七隈キャンパス
2015年	研究大会では「わが国の環境アセスメントと国際社会」と題したシンポジウムを開催、学会誌では環境社会配慮に関する特集を組み、また北陸新幹線に係るルート変更の問題および軽微な変更について議論した。	研究大会:龍谷 大学瀬田キャンパス
2016年	研究大会では「環境影響評価技術手法の最新動向」と題したシンポジウムを開催し、学会誌ではフォローアップに関する特集を組み、生物多様性オフセット、エコロジカル・ネットワーク、条例アセス等について講演会を実施した。	研究大会:中央 大学後楽園 キャンパス

2. 学会の活動のあゆみ (2)



◆経年でみる学会活動の動き(3)

主な年	主な活動・動き	備考
2017年	陸上風力アセス案件の増加を受け、研究大会では再生可能エネルギーに関するセッションを設けた。アセス法制定20年を記念して環境省、環境アセス協会とともに記念講演会を開催した。	研究大会:山梨 県立大学飯田 キャンパス
2018年	研究大会で「環境アセスメントが活用されるための人・基盤づくり」のシンポジウムを開催、学会誌ではCCSに関する特集を組み、グリーンインフラをテーマに公開セミナーを実施した。	研究大会:法政 大学市ヶ谷キャンパス
2019年	大阪万博の決定を受け、研究大会では「湾岸未来都市のあるべき環境像を模索する」と題するシンポジウムを開催した。アセス事例を読み解き、アセスの役割などについて小冊子をまとめ、公開セミナーは過去のアセス事例をテーマに実施した。	研究大会:大阪 市立大学杉本 キャンパス
2020年	2019年再エネ海域利用法の施行により洋上風力のアセス案件が増加、研究大会では「洋上風力発電と環境アセスメント」と題したシンポジウムを開催した。新型コロナウイルス感染により総会や大会、委員会等はオンライン方式となった。	研究大会:オン ライン(桜美林 大学)
2021年	学会活動として①規約第34条の委員会設置等に係る規程の整備、②10年以上正会員を継続した70歳以上のシニア会員の導入、③中堅の研究者等を対象とした新たな表彰制度の創設を行った。学会業務の外部委託契約を毎日学術フォーラムと締結。	研究大会:オン ライン(名古屋 大学)

2. 学会の活動のあゆみ (3)

◆公開セミナー等の開催(開催年とテーマ)

- 第1回 2003年 「住民参加による政策形成は可能か－三番瀬円卓会議を例に」
- 第2回 2004年 「水域生態系機能の定量的評価について－生態系の評価法等」
- 第3回 2005年 「どう変わる? 環境アセスメント技術の最前線」
- 第4回 2006年 「地方のアセスメントから学ぶ」
- 第5回 2007年 「地域環境情報とコミュニケーション」
- 第6回 2008年 「廃棄物処理における環境アセスメントの果たす役割と課題」
- 第7回 2009年 「アセス審査会のあり方について」
- 第8回 2010年 「事後調査の現状と課題－今後のあり方について」
- 第9回 2011年 「スモールアセス－現状と課題について」
- 第10回 2012年 「コミュニケーションについて」
- 第11回 2013年 「風力発電施設に係る環境影響評価の現状と課題」
- 第12回 2014年 「海洋生態系の環境影響評価における現状と技術開発」
- 第13回 2015年 「環境影響評価に関する技術手法の最新動向」
- 第14回 2016年 「環境社会配慮とアセスメント」
- 第15回 2017年 「陸上風力発電アセスメントの現状と課題」
- 第16回 2018年 「環境アセスメントとグリーンインフラ」
- 第17回 2019年 「過去の環境アセスメントに学ぶ」
- 第18回 2020年 (コロナ渦により中止)
- 第19回 2021年 「環境アセスメントの新たな展開」

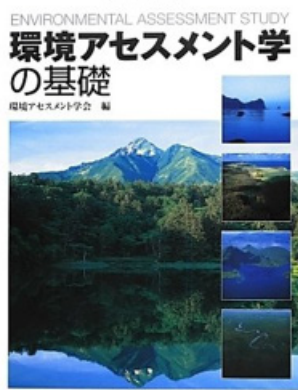


2013年公開セミナーの様子
明治大学 駿河台キャンパス

2. 学会の活動のあゆみ (4)

◆学会編集の環境アセスメント関連の書籍・学会誌の発行

『環境アセスメント学
の基礎』



2013年2月発行 恒星社厚生閣

『環境アセスメント学
入門』



2019年3月発行 恒星社厚生閣

『環境アセスメント
学会誌』



2022年2月発行 株式会社共立
(年2回発行)

2. 学会の活動のあゆみ (5)

◆学会編集の環境アセスメント小冊子 これまで9冊発刊 ＜最新刊の例＞

●事例で読み解くアセスの効果(役割)「アセスに関わって地域を良くしよう！」(ver.1 2020年3月)

1. 藤前干潟(1)～(3)
2. 愛・地球博(1)～(3)
3. 都心部開発事例(1)～(3)
4. 調査、予測、評価に取り組む姿勢
5. ステークホルダーとの交流が生み出すコミュニケーション
6. 環境アセスメントが機能し、効果的な意思決定につながるための体制
7. 地域や社会の持続可能性に果たす役割
8. アセスに関わって地域を良くしよう!

●先手先手の環境配慮が肝心「配慮書を活用しよう」(ver.1 2021年9月)

1. 配慮書の機能と手続き
2. 手法と技術
 - (1)複数案の設定 (2)調査予測評価の範囲(項目の選定含む)
 - (3)調査予測評価の方法
3. 事例で見られた役割
 - (1)道路 (2)公有水面埋立 (3)火力発電所
 - (4)風力発電所, 太陽電池発電所
4. 今後の方向性

3. アセス学会創立20周年記念事業の概要

1	創立20周年記念式典の開催	2022年5月 総会時にあわせて、来賓祝辞、学会活動沿革の紹介、功労者等の表彰、記念講演の実施等の記念式典を実施	20周年記念事業特別委員会、行事委員会
2	(1)「学会のあゆみ」の作成 記念式典時に出席者に配布	記念式典に際して、出席者に配布	20周年記念事業特別委員会
	(2)「学会創立20周年記念誌」の 刊行	「学会のあゆみ」に記念式典の記録、座談会の記録等を追加して発行、全学会員に配布	20周年記念事業特別委員会、若手研究会等
	(3)記念誌ファイル、HPIに 掲載	20周年記念誌の主な内容を学会HPIに掲載し、広くPRする	情報委員会
3	学会誌20周年記念特集号 の発行	2022年度(後期)発行の学会誌において20周年記念事業に関する特集を行う	編集委員会
4	20周年記念座談会 学会20周年を記念して関係者による座談会を2021年と2022年に開催	第1回座談会 2021年11月実施 「これまでの環境アセスメント制度を振り返る」	若手研究会、20周年記念事業特別委員会
		第2回座談会 2022年12月実施 「環境影響評価法の今後の展望—法改正に向けて」	若手研究会、企画委員会 大会実行委員会、20周年記念事業特別委員会
5	アジア環境会議(AIC)における 学会 20周年記念報告	AIC(2022年9月16～18日)において環境アセスメント学会20周年記念報告を実施する	国際交流委員会、20周年記念事業特別委員会
6	20周年記念ロゴマークの作成	20周年記念事業の一体性、アピール性を高めるためにロゴマークを作成する	行事委員会、20周年記念事業特別委員会



目次	
歴代会長挨拶	3
環境アセスメント学会初代会長としての所懐	島津 康男
環境アセスメント学会 20 周年にあたって	浅野 直人
アセスメント学会のこれから 10 年に向けての期待	鹿島 茂
環境アセスメント学会 20 周年に向けて	柳 書一朗
環境アセスメント学会の成果と期待	田中 充
環境アセスメント学会 20 周年にあたって	藤田 八輝
役員経験者・関係者からの寄稿	17
環境アセスメント学会・創立 20 周年を記念して	猪田 勝美
環境研究からみた環境アセスメントの姿	石川 公敏
環境アセスメント学会 20 周年に向けて	小林 正明
環境アセスメント学会の新しい課題	倉阪 秀史
環境アセスメントの経路向上を目指して	澤本 洋二
学会設立前後—これからの環境アセスメント	田中 暉
配慮をよりすべきはどちらの環境か	花岡 千華
学会設立の理念は多様性と国際性—環境アセスメント学会と IASA—	原利 武彦
建築・学術委員会での活動とアセスの将来に向けて	村山 武彦
環境アセスメント制度と自身のあゆみ	和田 篤也
学会事業年表	39
功労者リスト	69
歴代役員・評議員リスト	73
環境アセスメント学会の概要	83

おわりに：今後のアセス学会発展に向けて JSIA 20th Anniversary

■ 1. 環境アセスメント学会の評価と課題

- **会員各位に協力により実態に即した活発な活動が展開**
 - ・各部会、サロン会、小冊子の発行、アセス検定など、会員と関係者の参加により、活発な活動が展開されている
 - ・研究大会等では、現場実態に即した実務者の報告も多く、現場知と研究が統合され、実務や制度に結びつく研究成果が得られている
- **課題として会員数減少への対策、財政基盤の確立が必要**
 - ・会員数は長期的に減少傾向にあり(いずれの学会でも同様の傾向)、会員数の増加が求められる。学会では、会員高齢化とそれに伴う学会退会の広がりを防止するため、「シニア会員制度」創設を実施。また、学生会員制度を導入した。
 - ・研究活動や部会活動の活性化などにより、学会の魅力を広く普及するなど、新規会員の増加につなげる取組を実施している。
 - ・会員数の減少に伴う財政収入の低下等に対応して、財政基盤の強化に取り組む必要がある。

おわりに：今後のアセス学会発展に向けて

■ 2. 環境アセスメント学会の次の10年、20年への期待

● 今後求められる環境アセスメント制度に取り組む

- ・ 会長経験者や役員経験者、関係者の寄稿から、例えば柔軟な自主アセスの普及、SEA(戦略的環境アセス)の導入、気候変動問題(脱炭素社会、気候変動適応)への対応、再生可能エネルギーに係るアセス手法など、示唆に富む指摘や提案がされている。
- ・ これを参考にアセス法改正の時期も迫る中、学会としてよりよいアセス制度の確立に向けた研究活動、実践活動をさらに広げる必要がある。

● 多くの会員参加を得た学会活動の展開へ

- ・ 会員は長期減少傾向への対応と財政基盤確立は、差し迫った課題であり、会員各位の理解と協力を得ながら取り組む必要がある。
- ・ まずは会員数の増加策が優先して求められ、会員1人ひとりが関心ある身近な活動に参加することにより、学会活動の活性化につなげ、退会数の縮小と新規会員の増加につなげるよう取り組む必要がある

⇒ 次の10年、20年に向けて、ぜひ会員各位のご協力を！

この内容は、2022年5月21日(土)午後
に開催された「環境アセスメント学会創
立20周年記念式典」(法政大学市ヶ谷
キャンパス・スカイホール)において発
表された概要をまとめたものです。